

平成27年3月7日
土木学会西部支部
研究発表会

観光客1000万人時代の インフラ整備を考える

沖縄総合事務局 次長 尾澤 卓思

▶事業毎からテーマ毎の目的・目標へ（総合力の発揮）

▶観光振興の観点から各事業について横串を刺す

▶沖縄観光振興に貢献するインフラ整備（6つの分野）

①観光資源の整備

「インフラは観光資源」

②観光地等の地域支援

「沖縄らしい魅力のある地域づくり」

③交通網の整備

「交通拠点とネットワークの構築」

④情報発信の拡充

「交流拠点からの発信」

⑤環境保全・再生

「保全・再生技術の蓄積と活用」

⑥防災・危機管理

「迅速かつ適切な初動対応の確立」

▶インフラ整備により観光客1000万人時代の社会の構築が必要

①見える化（6つの分野においてシナリオの作成）

②総合的な連携施策の立案

沖縄県の観光客数の目標、計画体系

- 沖縄県観光振興基本計画(第5次)で10年後に入域観光客数1000万人を目指している。
- 25年度ビジットおきなわ計画で630万人としていた数値目標に対して過去最高の658万人を記録した。

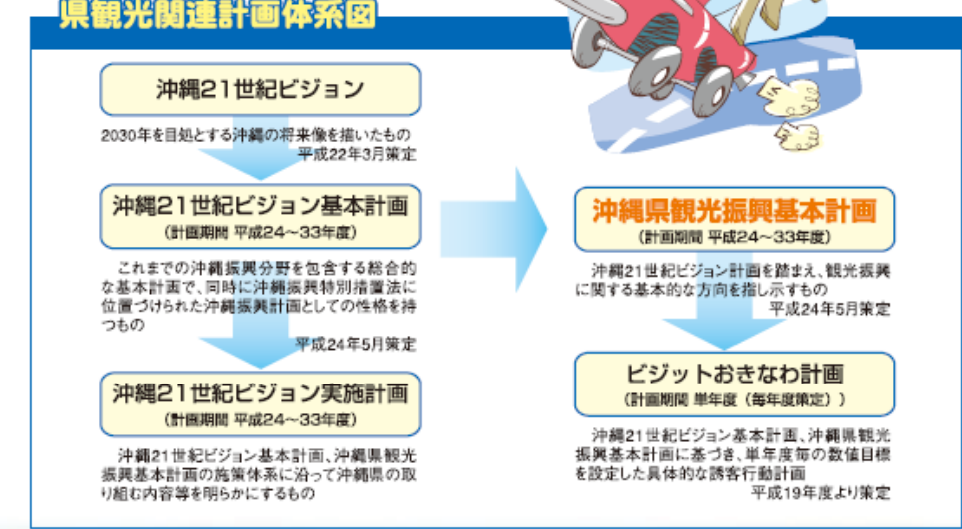
沖縄県の目指す観光の将来像と目標

沖縄県観光振興基本計画(平成24年度～平成33年度)

目指す将来像: 世界水準の観光リゾート地を目指す。

- 10年後の達成目標
- 1 観光収入 1兆円
- 2 観光客一人当たり県内消費額 10万円
- 3 平均滞在日数 5日
- 4 人泊数 4,027万人
- 5 **入域観光客数 1,000万人**

(国内客800万人・外国客200万人)



平成26年度ビジットおきなわ計画

単年度ごとの数値目標、達成に向けた施策展開を盛り込んだ具体的な誘客行動計画。

○26年度の具体的な数値目標は**690万人**。

項目	平成26年度 目標値	対前年度比	平成25年度
観光収入	4,970 億円	(11.4%)	4,463 億円 (見込み値)
（うち外国人観光客）	640 億円	(37.9%)	464 億円 (見込み値)
観光客一人当たりの県内消費額	72,000 円	(6.2%)	67,817 円 (見込み値)
（うち外国人観光客）	80,000 円	(8.1%)	73,992 円 (見込み値)
平均滞在日数	3.95 日	(0.18日)	3.77 日 (見込み値)
（うち空路外国人観光客）	5.50 日	(0.46日)	5.04 日 (見込み値)
人泊数	2,004 万人泊	(9.8%)	1,825 万人泊 (見込み値)
（うち空路外国人観光客）	258 万人泊	(46.6%)	176 万人泊 (見込み値)
入域観光客数	690 万人	(4.9%)	658 万人
（うち外国人観光客）	80 万人	(27.0%)	63 万人

出典: 平成26年度ビジットおきなわ計画(沖縄県)

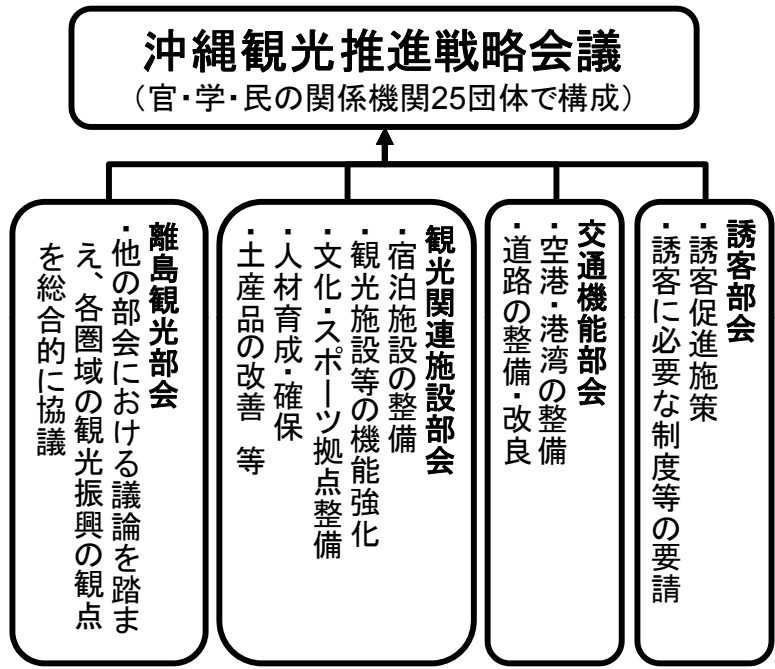
①観光客1000万人に向け行程表等の作成(沖縄県)

- 沖縄県では、平成33年度の入域観光客数1,000万人の達成に向けて、受け入れ態勢の構築等の行程表(沖縄観光推進ロードマップ)を作成するため、「沖縄観光推進戦略会議」を9月8日に設置。
- また、観光危機管理の定義を明確にし、対応や復興に向けた「沖縄県観光危機管理基本計画」を策定するため、「沖縄県観光危機管理基本計画策定委員会」を5月29日に設置。

【沖縄観光推進ロードマップ】

- ・観光誘客の拡充・交通機能の拡充・観光関連施設等の拡充・離島観光の推進に関し作業部会を設け、26年度内の公表にむけ議論

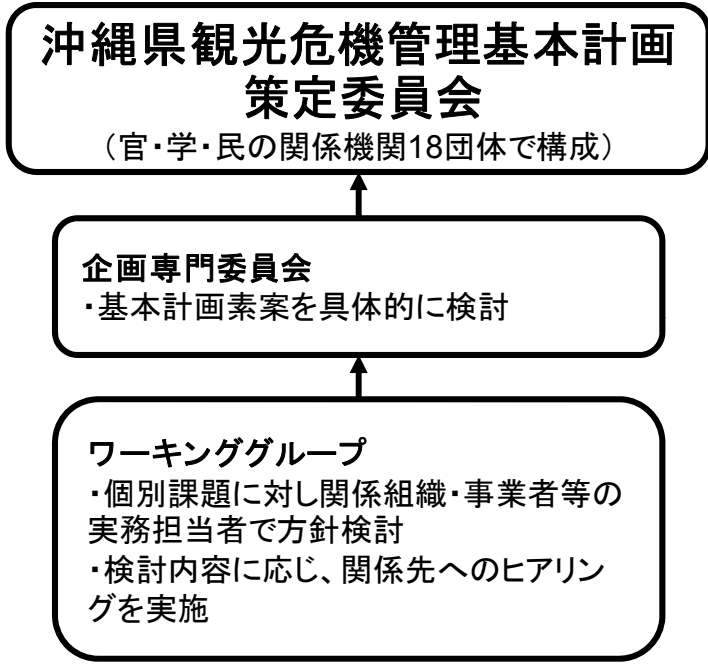
(検討体制)



【沖縄県観光危機管理基本計画】

- ・観光危機管理に関する基本的な考え方、関係法令・計画等との連携等に関し企画専門委員会・ワーキンググループを設け、26年度内の公表にむけ議論
- ・27年度には、同基本計画をもとに観光危機管理実行計画を策定する予定のほか、市町村、事業者の観光危機管理計画策定を推進

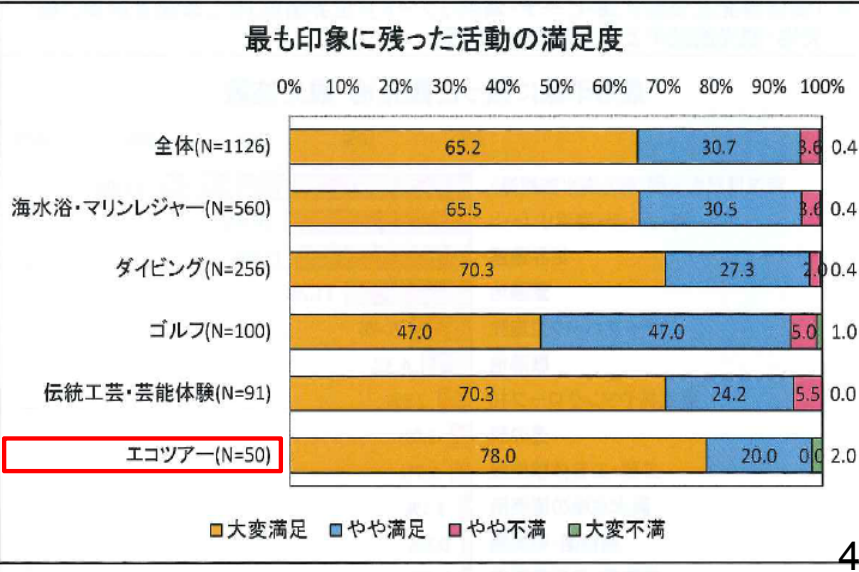
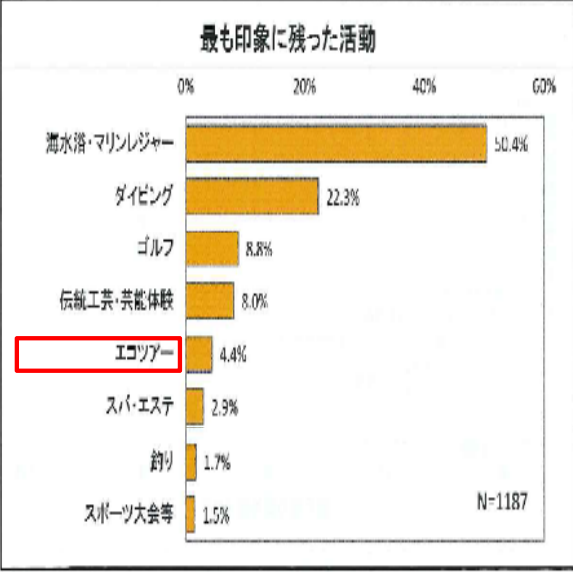
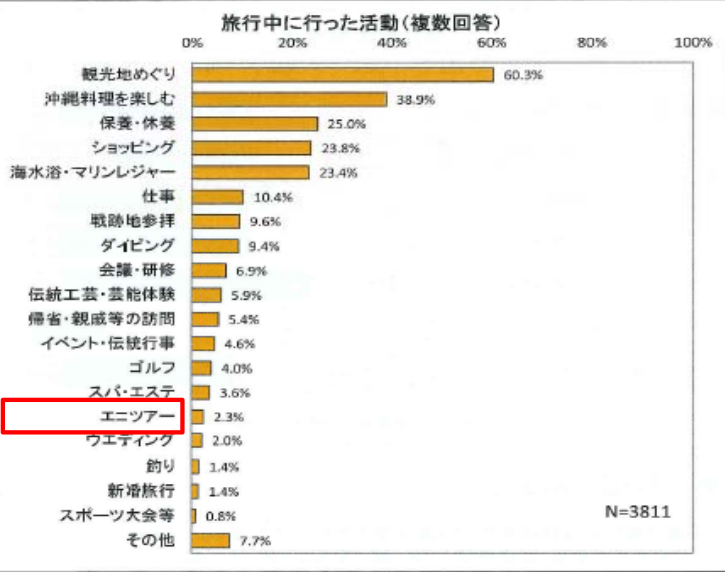
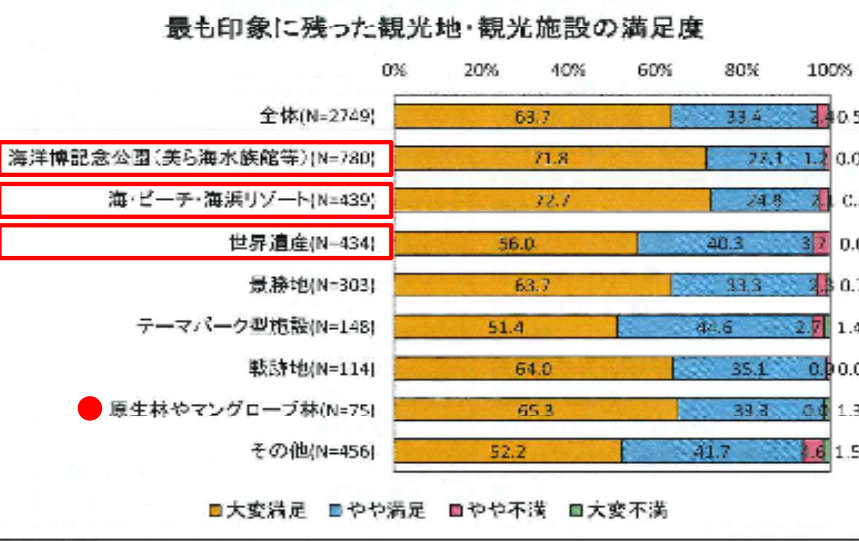
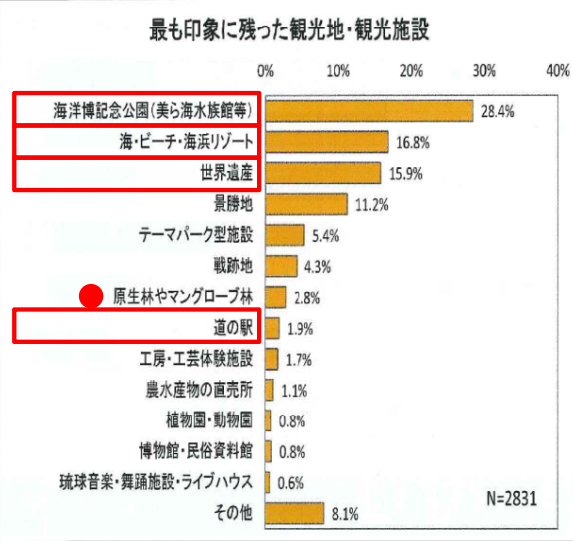
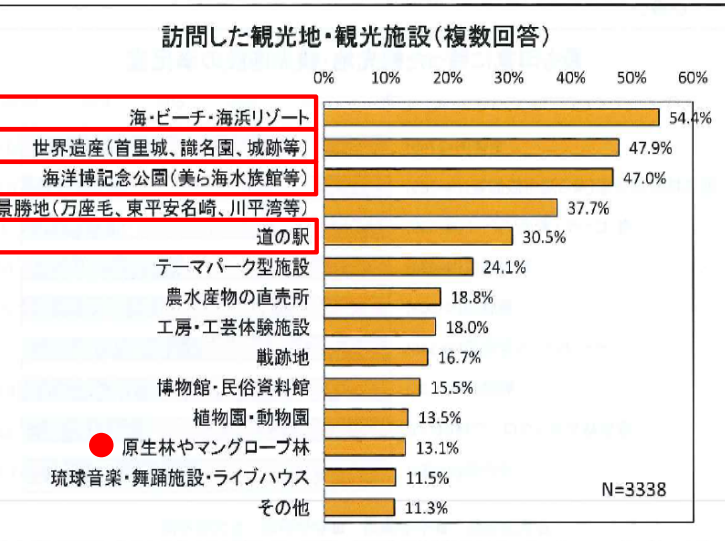
(検討体制)



沖縄観光の満足度調査(沖縄県)

○沖縄観光の満足度に関する調査(沖縄県)によると、旅行中に訪問した観光地・観光施設の中で、世界遺産(首里城等)、海洋博記念公園(美ら海水族館等)、道の駅が上位にランクし、かつ満足度も高い。

○エコツアーは活動としては少数であるが満足度は高いという結果になっている。



① 沖縄の観光客数と国営公園の入園者数

- 沖縄県の平成25年度の観光客数は658万人で過去最高。
国内観光客及び海外観光客ともに過去最高。
- 国営沖縄記念公園の平成25年度入園者数は643万人と過去最高を記録。
海洋博地区は408万人で初めて400万人を超え、首里城も235万人。
- 沖縄美ら海水族館開設 (H14) 後の国営沖縄記念公園の入場者数は県全体の観光客数と相関関係が見られる。※公園入園者数には県内利用者も含む。

平成26年入域観光客数
平成26年の入域観光客数は705万6千人で、過去最高を更新し、初の700万人台を記録。

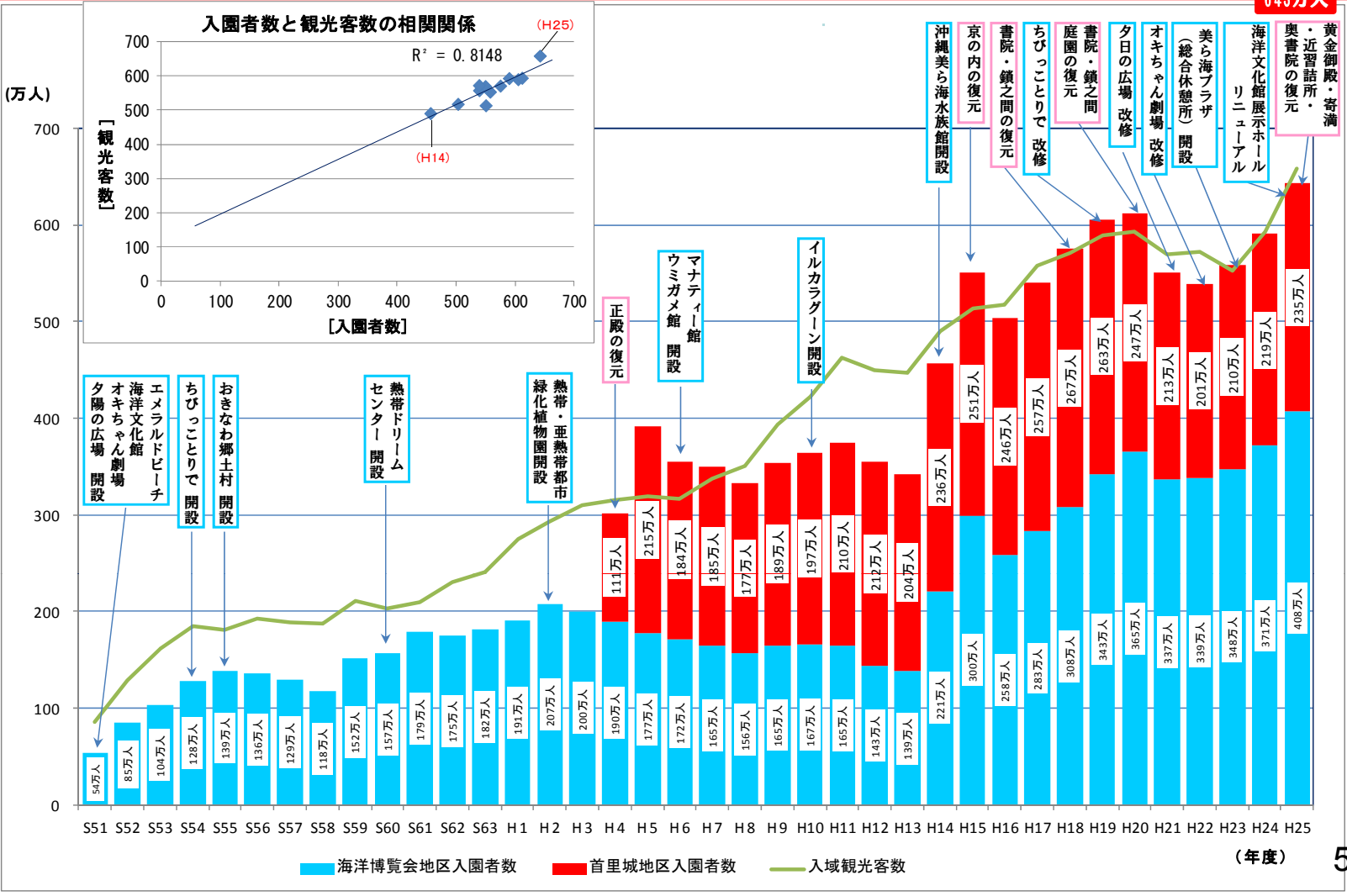
〔H25開園施設〕



夏休み期間中からリニューアルオープンした海洋文化館の大型スクリーン



1月にオープンした黄金御殿・寄満・近習詰所、奥書院

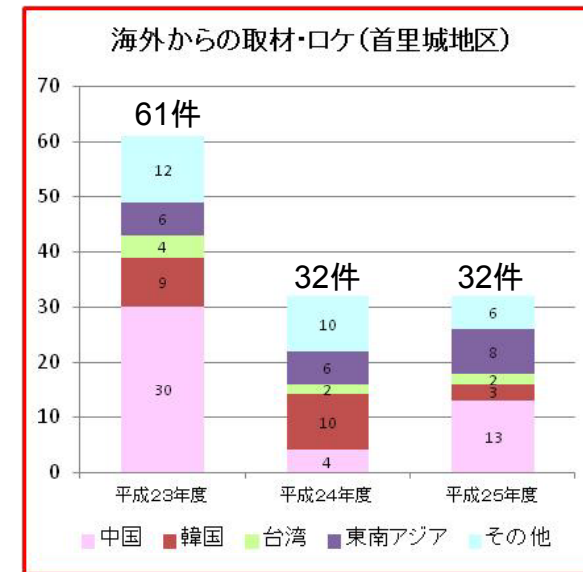
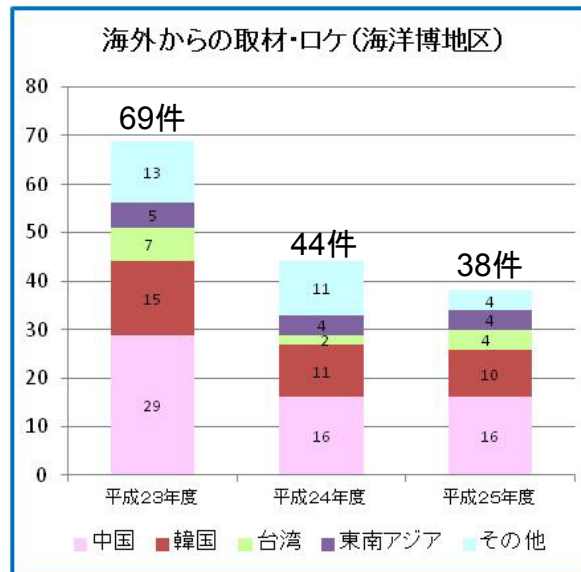


①沖縄観光の拠点として海外へ積極的にPR

- 国営沖縄記念公園では、沖縄の観光振興の中核として、OCVB(沖縄観光コンベンションビューロー)等と連携して、海外への情報発信を行っており、また、海外での紹介状況からニーズ等についても把握していきます。
- 海外からの取材、ロケを積極的に受け入れ、様々な海外メディアによる情報発信を通じて、アジア、欧米、豪州など諸外国での沖縄観光等のPRに貢献しています。

- 台湾ドラマ 「美男子(イケメン)ですね。」
放送：平成25年4月～
※台湾・香港・マレーシア・シンガポール等で放映
撮影期間：平成25年1月8日～11日
- 韓国KBSドラマ 「サメ」「復活」「魔王」シリーズ
放送：平成25年5月～
撮影期間：平成25年5月11日～15日
- 中国映画 「有種你(ユウジョンニー)愛(アイ)我(ウォー)」
上映：平成26年2月～ ※中国・北京で上映
撮影期間：平成25年10月19日～22日

※ 韓国ではドラマ放映後に、ロケ地の問合せも多く、韓国の旅行会社では、海洋博公園を観光コースに組み入れ、積極的誘客を行っている。(韓国 M&S TOUR CEO 情報)



沖縄観光の代表的な施設として取り上げられ、近年は旅行系の情報誌のみならずファッション誌やウェディング系の情報誌の取材も増加。



中国映画 ロケの様子



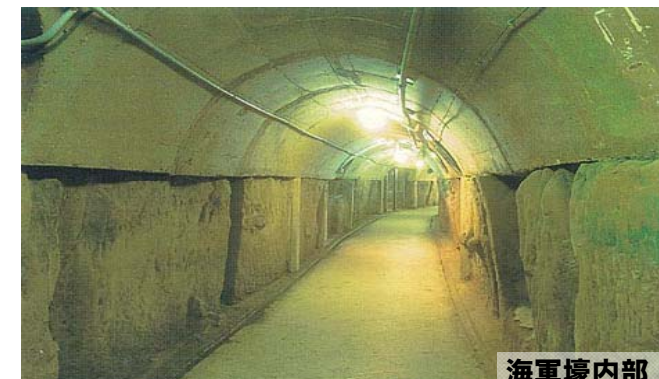
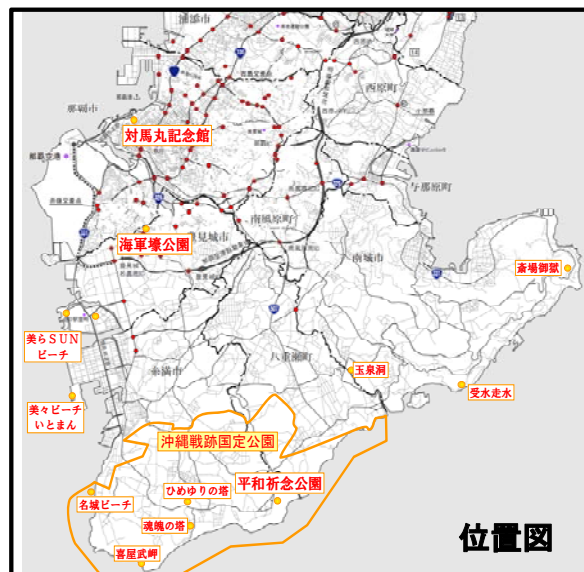
タイのファッション誌(若い女性向け)



台湾の旅行雑誌

①戦跡公園等の整備

- 糸満周辺の南部地域は、太平洋戦争の戦跡等が多数点在し、戦跡としては全国唯一の国定公園。
- 国内外の観光客をはじめ、慰霊団、修学旅行生等が多く訪れており、公園事業で整備した平和祈念公園などは、観光の要所ともなっている。



【海軍壕公園】海軍壕公園は、那覇市と豊見城市の境界に位置し、平成7年度より公園の利便性の向上と施設の充実を図るべく公園区域を拡張し、旧海軍壕を核として戦争の悲惨さと平和の大切さを訴えていく平和学習の場として沖縄県が公園事業で整備を行っている。

※壕内の指令室を再現した机や椅子などの展示品、柵や手摺りなどの工作物は、公園事業者以外の団体の所有物。



【平和祈念公園】平和祈念公園は、沖縄戦の記録写真や遺品などを展示した平和祈念資料館、国立沖縄戦没者墓苑をはじめ各県の慰霊塔などがあり、平和学習の拠点となるとともに、休日には多くの家族連れが訪れる広域公園として沖縄県が公園事業で整備を行っている。

※国立沖縄戦没者墓苑、平和の礎、沖縄県平和祈念資料館、沖縄平和祈念堂、各県の慰霊碑、韓国人慰霊塔は公園事業者以外の団体による整備。

①砂浜「ビーチ」の整備

- 港湾事業(平良・中城湾・石垣港)においては、護岸、防波堤、浚渫で発生した土砂による埋立地造成などの港湾整備と併せて県・市が人工ビーチや緑地を整備。
- 海岸事業において、砂浜の復元・創出・利便施設等について整備。
- 公園事業において、人工ビーチと一体となった安心・快適な都市公園を整備。
- これにより、地元や多くの観光客で賑わい、魅力ある観光拠点にもなっている。

位置図

- 港湾事業(国土交通省)
- 海岸事業(国土交通省)
- 海岸・公園事業(国土交通省)
- 公園事業(国土交通省)
- 海岸事業(農林水産省)
- 漁港事業(農林水産省)

海洋博公園
「エメラルドビーチ」

運天地区海岸(ビーチ)

名護21世紀の森ビーチ

ナビービーチ

宇座海岸(ビーチ)

漢那ビーチ

伊基ビーチ

屋嘉ビーチ

宇堅ビーチ

サンセットビーチ※2

アラハビーチ

トロピカルビーチ

中城湾港 泡瀬地区「人工ビーチ」※1

浜比嘉ビーチ

波の上ビーチ

吉の浦ビーチ

豊崎美らSUNビーチ※2

西原きらきらビーチ

あざまサンサンビーチ

美々ビーチいとまん

志喜屋ビーチ

※1埋立地造成は国、砂浜部分は県・市の事業で整備

※2砂浜部分は他事業で整備



直轄事業



中城湾港泡瀬地区「人工ビーチ」

沖縄本島中部東海岸地域の活性化を図るため、泡瀬地区人工島を活用したスポーツコンベンション拠点の形成を図る。泊地の浚渫で発生した土砂を国が有効活用して埋立地を造成、県が人工ビーチ、緑地、マリナー、市が上下水道、民間でホテル、コテージ、商業施設を整備し、観光拠点を形成する。

直轄事業



石垣港新港地区「人工ビーチ」

国際的な観光リゾート地としての基盤強化を図り、地域住民へのレクリエーションの提供を行うため、国の航路浚渫で発生した土砂を人工ビーチの一部として活用し、石垣市が人工ビーチ、緑地を整備する。また、国が大型旅客船に対応した岸壁を整備し、ビーチと一体となって魅力ある観光拠点を形成することで、地域の活性化を図る。

補助事業



トロピカルビーチ(宜野湾海浜公園)

トロピカルビーチは、海岸事業において整備された海浜で、海水浴の他、ビーチサッカー大会や花火大会など地元のお祭りにも利用。また、ビーチ一帯は宜野湾海浜公園として整備され、グラウンドや体育館、アスレチック遊具なども充実。※宜野湾海浜公園は公園事業で整備。

補助事業



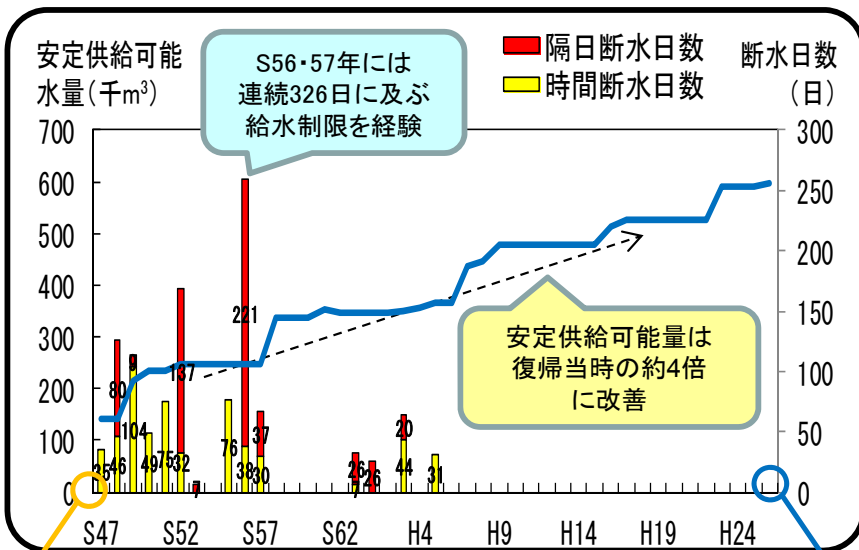
豊崎美らSUNビーチ(豊崎海浜公園)

埋立事業によって創出された砂浜と一体となった公園を整備。豊崎美らSUNビーチは、全長約700mと県内最大級の大きさ。きれいな海での海水浴の他にも散歩、ビーチサッカー、バスケットボールなどを楽しむことができる。※豊崎海浜公園は公園事業で整備。

①、②沖縄県本島を支える北部地域の水源地

- 多目的ダムが現在の水準まで整備される以前は、毎年のように給水制限(断水)が行われていた。復帰以降10ダムの建設を推進した結果、水事情は大幅に改善された。平成6年度以降は給水制限が実施されていない(H26年3月1日で連続給水満20年)など、沖縄県の経済発展、生活水準の向上に寄与。
- 水資源は主に北部やんばるのダムに依存している一方、消費地である中南部に人口及び経済活動が集中しており「北水南送」の状況。
- 沖縄の命の水を育むやんばるの水源地域の保全は、重要な課題。

ダム開発による安定供給可能水量と給水制限実績の推移

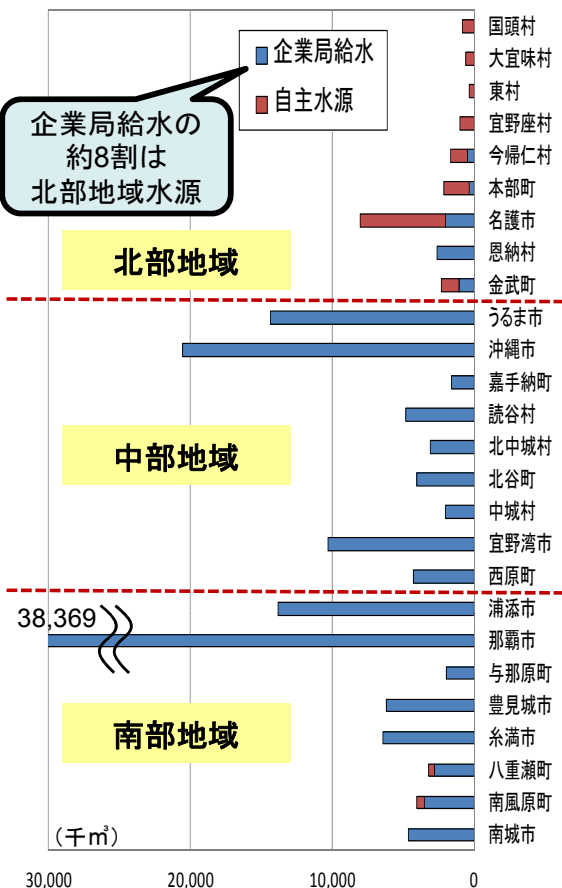


給水制限時の自衛手段の屋上タンク



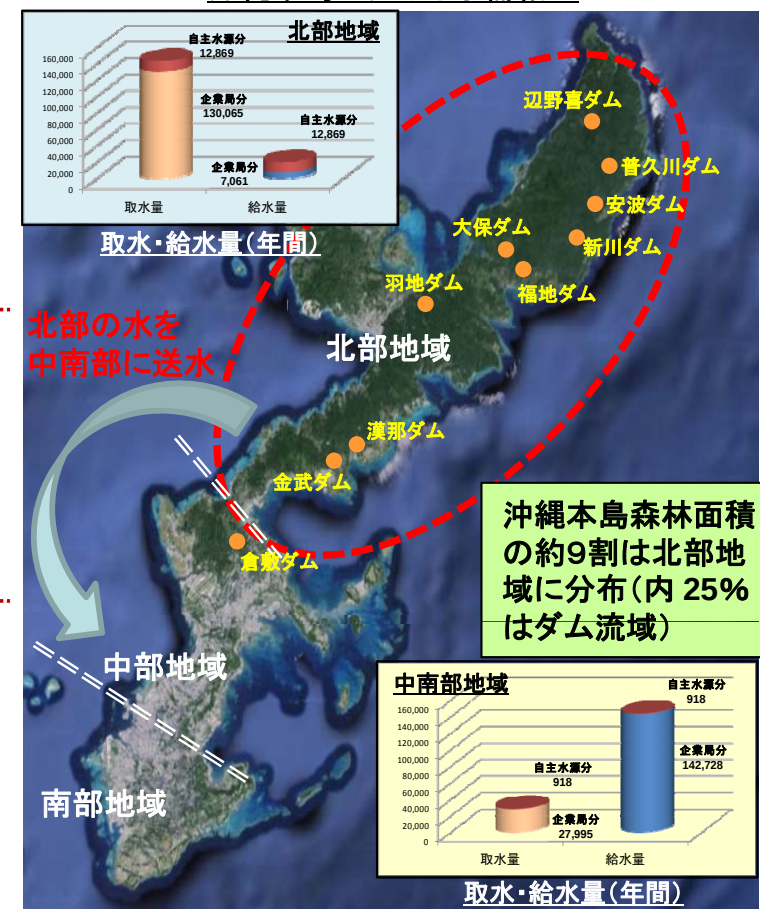
10ダム目となる金武ダムの竣工(H25年度末)

沖縄本島における市町村別給水量



※ 出典「水量資料記録集(沖縄県企業局)」H24沖縄県の水道概要「南部水道企業団資料」より、沖縄総合事務局河川課作成

沖縄本島における水需給地



※ 取水量:ダム・河川・海水淡水施設等水源からの取水量(H24)
給水量:各市町村・水道企業団への水道水給水量(H24)
(給水量は工業用水を除く)

① 沖縄北部ダムツーリズムの推進

- 沖縄北部ダムツーリズムとは、ダムやダム湖における観光、エコツーリズムなどの水源地域の魅力ある活動。
- ダム毎に主要テーマを設定した管理施設メニュー、及びダム湖面等ダムエリア内でNPO等が実施するメニューをダムツーリズムとして整理・明確化。
- 水源地やんばるの自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらい、森や水を守るとともに、北部水源地の活性化を支援。



ダム名	主要テーマ	沖縄北部ダムツーリズム		地域圏の主なメニュー
		ダム管理施設メニュー	NPO等が実施するメニュー	
漢那	ダム施設見学 環境学習	①ダム堤体の見学(景観設計) ②ダム内部の見学 ③本ダム右岸の魚道見学 ④本ダム下流のマングロープ生態系 ⑤貯水池上流に隣接する第二貯水池(自然観察広場)		・道の駅ぎのぞ ・かんなパークゴルフ ・宜野座村立博物館 ・松田鍾乳洞 ・宜野座村の体験ダイビング
羽地	小学生の 社会見学	⑥ダム資料館 (沖縄の水資源他(小学生向け)) ⑦川遊び&川の生き物観察		・羽地民泊 ・名護城トレッキング
福地		⑧ダム資料館 (沖縄の水資源(大人向け))	⑪ダム湖での自然観察船(ゴンミキ号)の運航 (東村ふるさと振興株式会社が運航) ⑫ダム湖でのカヌー体験 (東村ふるさと振興株式会社が実施)	・山と水の生活博物館 ・村民の森つつじエコパーク ・沖縄やんばる海水湯水発電所 ・慶佐次湾のヒルギ林マングロープツアー&遊歩道散策 ・半日・一日農業体験 ・東村シュノーケルツアー
大保	野外活動 と学習	⑨ダム資料館(環境保全対策)	⑬ぶながや湖カヌー体験&大保川清流トレッキング ⑭森と水辺のノルディックウォーキング ⑮森と水辺のサイクリング (以上、おおぎまるとツーリズム協会が実施)	・ター滝トレッキング ・道の駅大宜味
金武		⑩ダム資料館(徳首ダム事業)		・ネイチャーみらい館 ・徳首川マングロープカヌー体験
安波	野外活動		⑯亜熱帯ジャングルカヌーと川遊び (国頭ツーリズム協会が実施)	・やんばる学びの森(ツアープログラム、学びのゾーン、遊びのゾーン) ・比地大滝トレッキング

ダム管理施設を活用した取組み



ダム堤体見学



ダム資料館見学

ダム湖面や周辺の自然環境を活かした地域の活動



亜熱帯ジャングルカヌー



大保ダムノルディックウォーキング

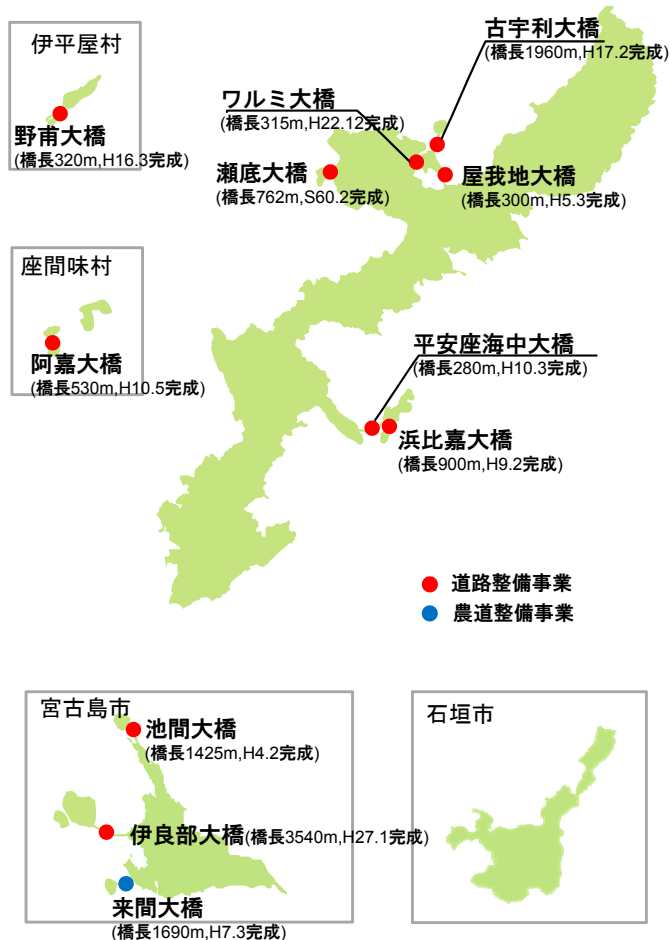


ダム下流における川遊び

①、③ 離島架橋（補助事業）

- 沖縄県は、全国でも有数の島嶼県。沖縄本島を除く、宮古島、石垣島等の39の有人離島がある。
- 離島架橋の推進により、産業基盤の確立、観光資源の開発、文化交流、教育・医療・福祉の向上など 地域振興を支え、「島チャビ(離島苦)」を解消。
- 観光資源としては、「橋」及び周辺が、魅力ある観光拠点にもなっている。

主な離島架橋位置図



フルミ大橋

フルミ大橋の開通により、屋我地島や今帰仁村の移動時間が大幅に短縮され、地域間の連携・交流が促進される。
さらに、観光客にとっては、国営沖縄記念公園や今帰仁城跡方面から屋我地島、古宇利島を訪ね、国頭地域へ辿る、新たな観光周遊ルートが形成され、より魅力ある北部観光の発展も期待される。また、駐車場も整備され、ここから羽地内海が一望でき、この風景は格別で、多くの観光客等が訪れている。



伊良部大橋

伊良部大橋は、宮古島と伊良部島を結ぶ離島架橋であり、H27.1開通。本橋は新北九州空港連絡橋を上回り、通行料金を徴収しない橋としては日本最長となる。宮古島と伊良部島が道路でつながり一体となることで、伊良部島の生活環境や福祉の向上、宮古圏域の観光や産業などの活性化が期待される。
また、2015.4.19に開かれる全日本トライアスロン大会のコースにも新たに採用されスポーツ振興にも貢献する。



古宇利大橋

古宇利大橋は、今帰仁村古宇利島と名護市屋我地島を結ぶ橋梁であり、架橋後は、沖縄本島と一体となった生活環境を整えることができ、更に、古宇利島特有の豊かな自然環境を目的に訪れる人々が増え、観光産業も盛んになっている。
なお、古宇利島の橋のたもとにはきれいなビーチがあり、また、橋の両側は美しい沖縄のマリンブルーが展望でき、沖縄本島北部を代表する景観にもなっている。



池間大橋

池間大橋は、宮古島と池間島を結ぶ橋梁であり、コバルトブルーの雄大な海に架かるダイナミックな橋梁景観となっている。
橋のたもとには展望所を備えた駐車場があり観光スポットになっている。また、池間島の北沖5～15kmに、旧暦3月3日の大潮の干潮で、面積約25km²に渡って、珊瑚礁群が海底から姿を現す「幻の大陸」八重干瀬はダイビング・シュノーケルの絶好の場所となっている。

②「道の駅」による地域活性化(物産、観光、防災)

- 沖縄県内の「道の駅」は8駅（全国は1,040駅）。
- 地域の個性・魅力を活かして、物産、観光、防災面で、地域活性化に貢献。

「旅行好きが選ぶ 日本全国道の駅トップ20」： 県内7駅中4駅がランクイン
1位「道の駅」許田、5位「道の駅」かでな、16位「道の駅」ゆいゆい国頭、18位「道の駅」いとまん
(旅行口コミサイト「フォトラベル」発表)



「道の駅」おおぎみ



道路情報・観光情報提供

「道の駅」ゆいゆい国頭



農産物直売所「ふるさと市」

「道の駅」喜名番所



観光案内所

「道の駅」ぎのざ



特産品加工直売センター

「道の駅」許田



県内初の「道の駅」

「道の駅」いとまん



お魚センター

「道の駅」豊崎



空港の離発着情報提供

「道の駅」かでな



展望台から嘉手納基地一望

②地域に根ざした「道の駅」

- 「道の駅」では、そこでしか買えない、新鮮な地元特産品等を販売。
- 高齢者農家や地元高校との連携など、地元と密着した活動を推進（農家の育成や収入増にも貢献）。

○高齢者農家支援として、「道の駅」職員による集荷作業を実施（「道の駅」ゆいゆい国頭、「道の駅」許田）

○地元農林高校と老舗菓子店による特産品を活用した商品開発（ちんすこうにアグー脂を使った「きんそう」）（「道の駅」許田）



（パインの集荷）



（野菜の納入）

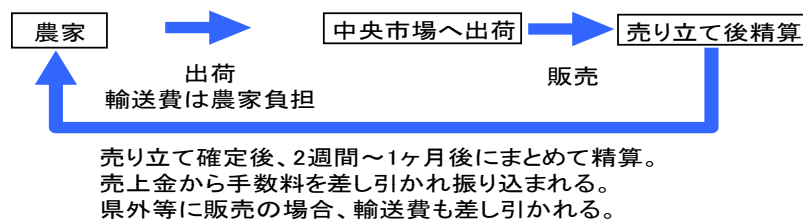


（地元高校生による商品の製造と販売PR）

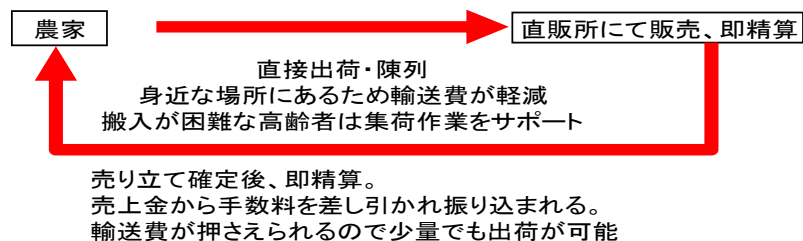


・輸送費軽減及び新たな収益の場の提供
農家の収益が増加することにより、安定して農業に従事することが出来、農業離れの歯止めを図る。

農産物直販所が無かったときの流れ



農産物直販所での流れ



○地元特産品の販売（「道の駅」喜名番所を除く各駅）



（賑わう販売所）



（野菜）



（魚）



（果物）



（地元特産・マンゴー）



（地元特産・パイン）

②「手づくり郷土賞」による地域支援

○優れた地域活動を評価する「手づくり郷土賞」を活用し、沖縄の魅力ある郷土づくりを全国にPRし、沖縄の元気につなげてまいります。

●中城村「古道ハンタ道と世界遺産」が平成25年度「手づくり郷土賞」を受賞

受賞団体の活動内容：中城城跡を中心に「グスクの会」が案内ボランティアを一年を通して行っており、村の歴史・文化を県内外に発信し、村内児童・学生の歴史教育の一翼を担い、観光にも寄与している。



【認定証授与式(H26.1.23)】



【古道ハンタ道の案内】



【認定証を受領する浜田村長】



【オリジナル紙芝居による案内】

「手づくり郷土賞」とは

良質な社会資本と優れた地域活動を一体の成果として発掘し、好事例として広く紹介することにより魅力ある郷土づくりに向けた取り組みが一層推進されることを目指して、創設（昭和61年度）された国土交通大臣表彰。

応募の注意事項

**募集時期：毎年6月
下旬～9月上旬**

募集団体：社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体の単体又は地方公共団体との共同（平成25年度は全国で40件の応募があり17件が受賞）

近年の沖縄県内受賞案件

平成22年度
備瀬のフクギ並木（本部町）

平成24年度
災害を乗り越え、地域コミュニティ活動の核となった歴史と伝統の越來城水辺公園（沖縄市）

平成25年度
「古道ハンタ道と世界遺産」郷土を愛し地域をおこすサークル活動（中城村）

受賞するとマスコミからも注目され、地域のPRにもなります。全国版のパンフレットでも紹介されます。受賞された活動団体の方々の励みにもなり、更に活動の輪が広がっていきます。是非、応募のご検討をお願いします。（お問い合わせ：沖縄総合事務局 開発建設部 建設行政課 TEL：098-866-1908）

②魅力あるまちづくりの支援

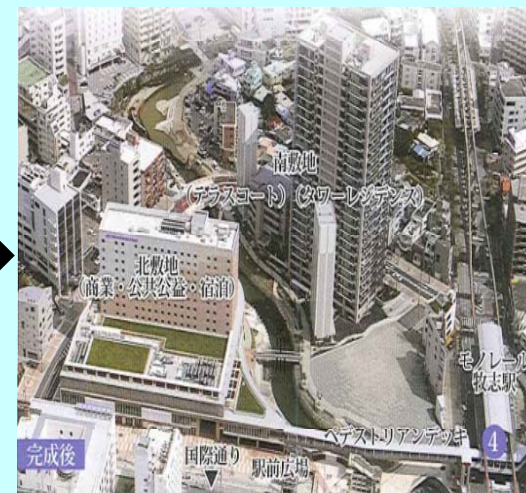
- 街路事業：豊かで公共空間を備えた良好な市街地の形成等
- 街なみ環境整備事業：住民が協力して美しい景観の形成、良好な居住環境の整備を行う事を支援
- 区画整理事業：中心市街地の活性化、商業、業務等の拠点市街地の形成等
- 市街地再開発事業：細分化された敷地の統合、共同建築物の建築、公園、広場、街路等の公共施設の整備等
- 都市再生整備計画事業：地域の歴史、文化、自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくり等
- 電線共同溝事業：安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、景観の向上等



赤瓦を用いた景観に配慮した建物



街路事業：龍潭線（県道29号線）



市街地再開発：牧志・安里地区第一種市街地再開発事業



都市再生整備計画事業：南風原町、浦添市



電線共同溝事業：那覇市（一般国道58号）

②沖縄らしい風景づくりの推進

- 沖縄総合事務局では、美しい国づくり、地域づくりを進めるため、様々な施策に取り組んでいます。その一環として、沖縄県と連携して、市町村が「景観行政団体」となり景観行政の担い手となることを推奨しています。
- 市町村では、景観計画の策定などを通じて、地域の特色に応じたきめ細かな規制や誘導方策を取り入れ、居住環境の向上や観光資源の創出などを図っています。国は、各種の事業、制度を整備し、市町村による取り組みを支援しています。
- ※ 「景観行政団体」とは、景観法により定義される景観行政を担う主体。政令市、中核都市、都道府県は自動的に景観行政団体となり、その他の市町村は、都道府県知事との協議・同意により景観行政団体になることが可能。

平成15年度 美しい国づくり政策大綱
平成16年度 景観法制定

平成24年 5月 沖縄21世紀ビジョン基本計画を策定
【施策展開】 沖縄らしい風景づくり

沖縄の各地域で個性溢れる風景・景観を創出
(歴史・文化的な景観や伝統的な集落、街なみの景観は、季節を問わない重要な観光資源)

【景観行政団体の形成推進】
市町村による景観法などに基づく取り組みが有効

- <景観形成>
 - ・地域の合意形成、景観計画の策定、景観地区の指定
 - ・景観協力工事の負担軽減に係る助成
- <景観管理>
 - ・地域景観協議会の設立
 - ・自立した地域活動に係る人材育成
 - ・建設や建築など景観にかかわる開発の規制、誘導
- <景観配慮>
 - ・地域景観に適した市町村公共事業実施

街なみ環境整備事業

(建造物の外観修景、塀・樹木等の移設、道路の美装化、電線の地中化、集会所の整備など)



琉球石灰岩による舗装の美装化や赤瓦によるファサードの統一感を創出

2007年頃 【事例:龍潭通り(那覇市)の街なみ】 現在

空き家再生等推進事業

(空き家の取得(用地費除く)、移築、増改築など)



<活用のイメージ>
空き家の古民家を交流・展示施設や体験宿泊施設に改築

空き家の古民家 【イメージ写真】 改築して再生活用

○沖縄県の景観団体等状況 (H26.3 現在)

景観行政団体 … 28 団体
景観計画策定 … 18 団体、 景観条例策定 … 16 団体

②沖縄らしさや伝統を表現する施設づくりの推進

- 「国立劇場おきなわ」は、沖縄総合事務局が施設整備を担当。平成26年1月開場10周年を迎えた。
- 沖縄らしさがあり、組踊をはじめとする沖縄の伝統芸能を継承、アジア・太平洋地域へ発信するための劇場のあり方などを検討しながら取り組んだ、全国で6番目の国立劇場整備事業。
- 海外の民俗芸能等の多彩な公演行事が行われるだけでなく、伝承者の養成・研修、沖縄伝統芸能に関する資料を収集し、保存・活用している。
- 今後も、沖縄の歴史、風土、環境、景観に配慮した魅力のある官庁施設等の整備事業を展開。

■沖縄らしい形態の表現

長大な庇が深い影をつくる
「雨端」

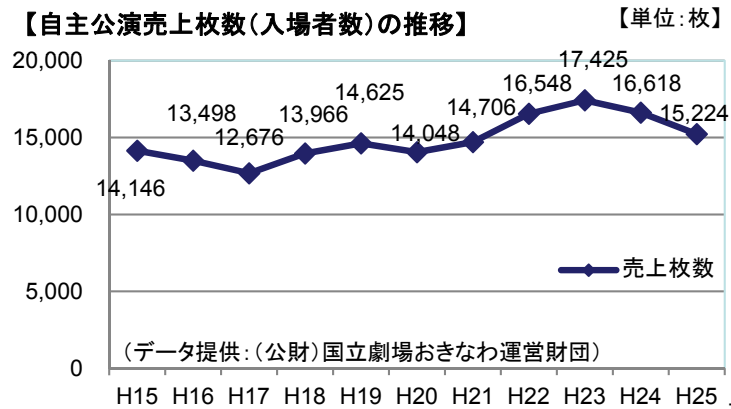
格子状や網代状に竹を組んだ
「チニブ」



現場で作成した3次元のプレストレストコンクリート壁の立て込み状況



(受賞歴)
平成18年 第47回建築業協会賞(BCS賞)
平成20年 第11回公共建築賞受賞



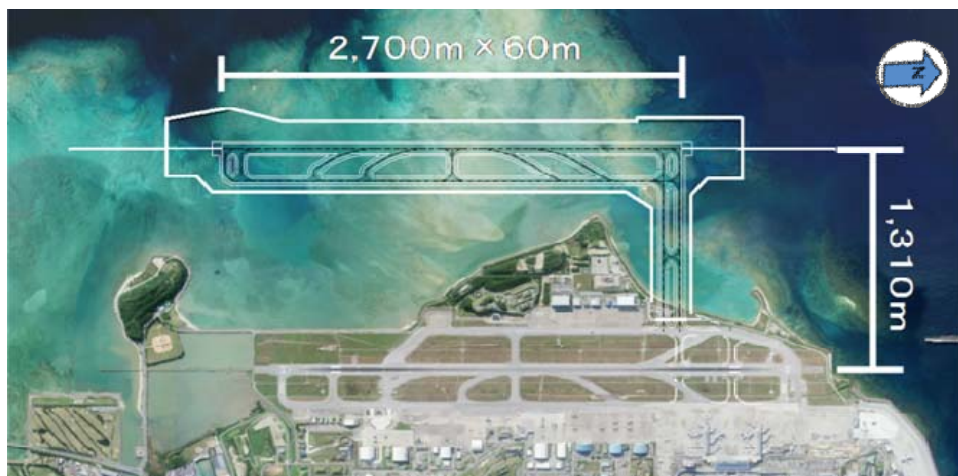
③那覇空港滑走路増設

- 那覇空港滑走路増設事業については、平成26年1月に工事着手しており、現在は護岸工を実施。
- 平成31年末に工事完了、平成32年3月末に供用開始することをめざし、引き続き事業を推進。

○ 現況

- ・滑走路：3,000m
- ・旅客実績：（国内）1,521万人、（国際）100万人（平成25年度）
- ・主要路線：（国内）164往復/日
（平成26年9月） 東京(30)、福岡(18)、中部(11)、関西(12)、
成田(11)、石垣(21)、宮古(16)等
（国際）89往復/週
台北(35)、上海(15)、香港(18)等
（貨物）64往復/週
成田(9.5)、上海(6)、香港(6)、シンガポール(3)※等
（※平成26年5月14日より就航）
- ・国内LCC就航状況：ジェットスター・ジャパン（成田(4)、関西(3)）
ピーチ・アビエーション（関西(3)、福岡(1)）
バニラエア（成田(3)）

○ 空港整備事業の概要



・総事業費：約1,993億円

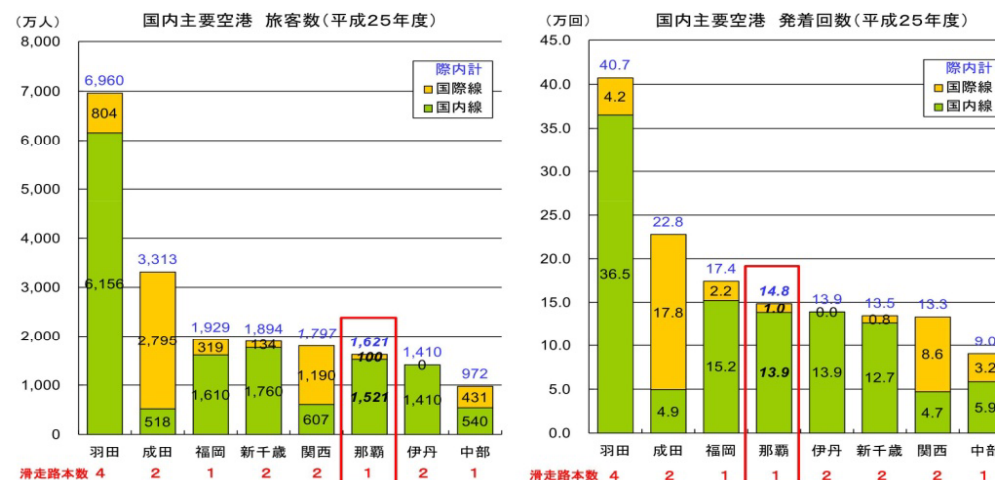
○ 平成25年度予算額：137億円（うち国費：130億円）

平成26年度予算額：347億円（うち国費：330億円）

安倍総理大臣による施政方針演説(H26.1.24)

- ・アジアと日本をつなぐゲートウェイ。それは沖縄です。
- ・アジアとの物流のハブであり、観光客を迎える玄関口として、那覇空港第二滑走路は日本の成長のために不可欠です。予定を前倒し、今月から着工いたしました。工期を短縮し、2019年度末に供用を開始します。

那覇空港は、国内の滑走路1本の空港としては旅客数・発着回数とも第2位

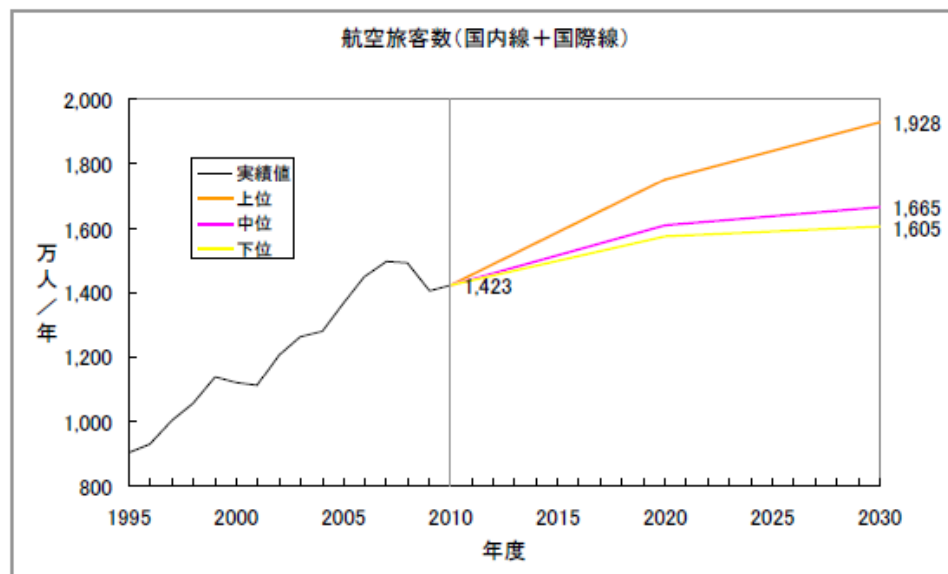


③滑走路増設による効果

- 那覇空港における将来の航空需要は、今後も増加することが見込まれており、滑走路増設により将来の航空需要に適切に対応することができる。
- ピーク時間帯に慢性的に発生している航空機遅延の緩和等、現状の運用上の問題点が解決できる。

■那覇空港における将来の需要予測結果

	旅客数(万人/年)		
	国内	国際	合計
2020年度	1,536 1,506~1,670	70.8 69.1~78.9	1,606 1,575~1,748
2030年度	1,567 1,511~1,811	97.9 93.8~117.7	1,665 1,605~1,928



(注)・中位ケース:国土交通省「将来交通需要推計の改善について【中間取りまとめ】」(平成22年8月)の設定を採用。

・上位・下位ケース:内閣府「中長期の道ゆきを考えるための機械的試算(2009年6月)」における底ばいケース・急回復ケースを採用。

■那覇空港における運用上の問題点の解決

- ①ピーク時間帯に慢性的に発生している航空機の遅延が緩和される



離陸許可待ちの出発機で混雑する状況

- ②滑走路上でトラブル発生時も航空機運航継続可能に

・滑走路が1本の場合、トラブル発生時において復旧作業・点検作業等の間は、全ての離発着をストップさせなければならない。

→滑走路増設により、一方を供用しながら他方で復旧作業が可能に

- ③滑走路のメンテナンス時間を確保可能に

・深夜貨物便の就航、自衛隊機のスクランブル、急患輸送機の発着等のため、夜間であっても航空機が離着陸できることが必要であり、メンテナンス時間に厳しい制約がある。

【現状メンテナンス時間】(月~土曜)23:00~1:30 (日曜)23:00~6:30

→滑走路増設により、一方を供用しながら他方のメンテナンスが可能に

③那覇空港の就航路線

- 沖縄県外の空港との間に24路線が就航。
- 沖縄県内の拠点となっており、県内の離島との間に7路線が就航。

<国内線>

就航先(県外)

- ・24路線 103往復／日 (平成27年1月時点)
～東京、～福岡、～関西、～中部 等
- ※平成24年よりLCC(3社)が就航

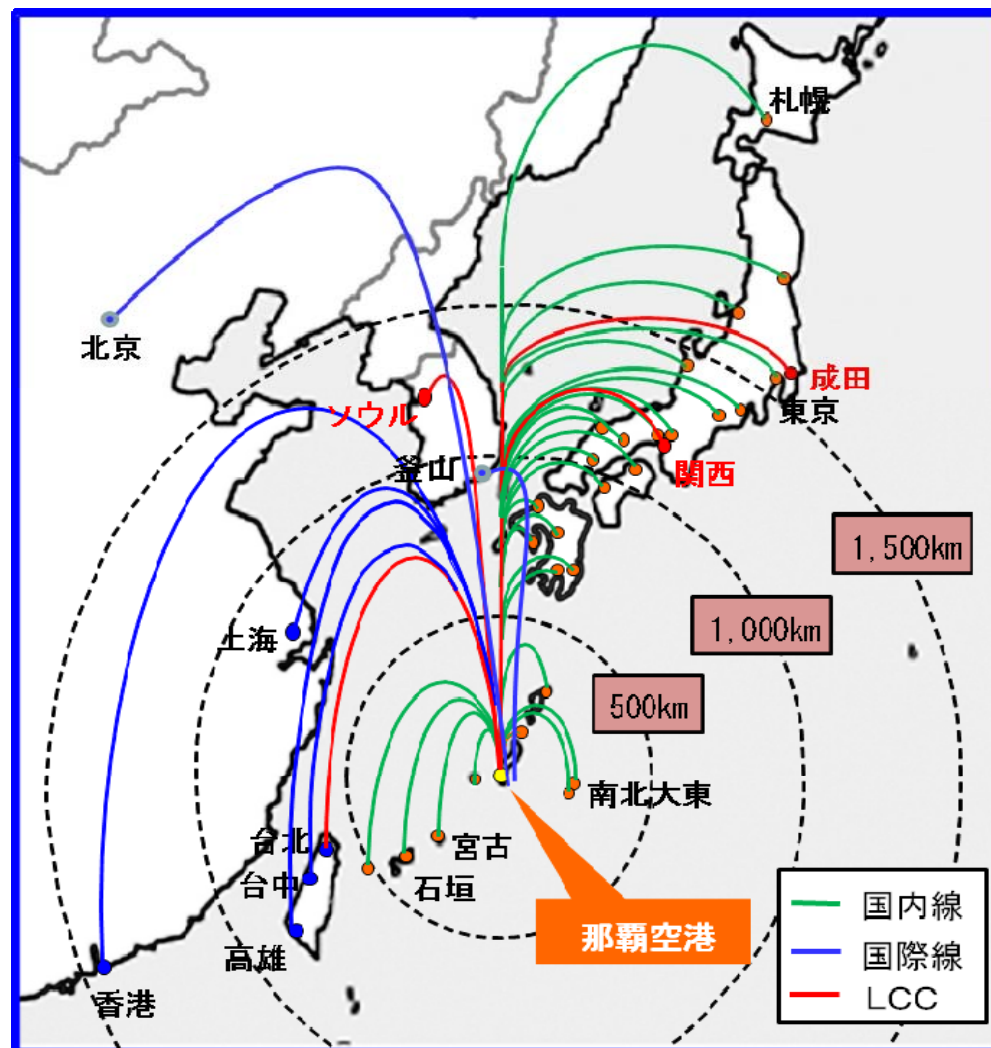
就航先(県内)

- ・7路線 47往復／日 (平成27年1月時点)
～石垣、～宮古、～久米島 等

<国際線>

就航先

- ・8路線 110往復／週 (平成27年1月時点)
- ～香港 (平成26年3月 増便)
- ～台北 (平成26年6月 増便)
- ～ソウル (平成26年12月 増便)
- ～上海 (平成26年1月 増便)
- ～台中 (平成25年6月 増便)
- ～北京 (平成25年7月 再開)
- ～釜山 (平成25年12月 増便)
- ～高雄 (平成26年10月 増便)



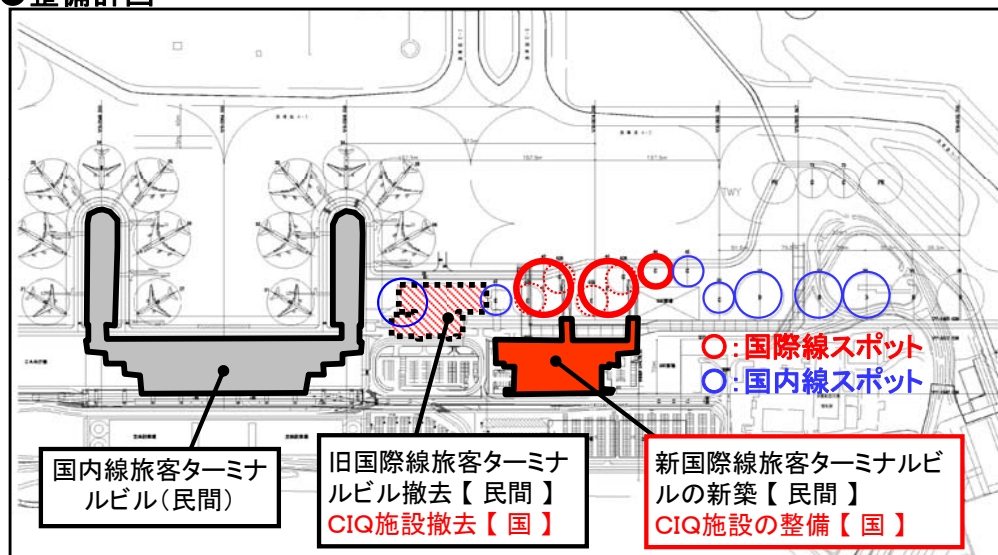
③那覇空港 国際線ターミナルビル

那覇空港 国際線ターミナル地域再編事業

- ◆国際航空需要の増加に伴う施設の狭隘化(国際航空旅客数、老朽化(整備後約30年経過))に対応するため、国際線ターミナル地域再編整備を平成21年度より実施、国際線スポットを3バース(うち固定スポット2)に拡張。
- ◆国及び民間で整備する新国際線旅客ターミナルビルは、平成26年2月17日に供用。
- ◆新国際線旅客ターミナルビルは旧ターミナルビルの約3.6倍の広さ(延床23,450㎡)。地上4階建てでボーディング・ブリッジ4基を備えており、旧ターミナルビルと比べ乗降にかかる時間を短縮させ、旅客利便性を向上させることができる。



●整備計画



③沖縄観光の状況(新石垣島空港の開港と注目される石垣島)

- ニューヨークタイムズが発表した「世界で行くべき52カ所」に石垣島が18位、アジアで3位、日本では1位。
- 2011年には沖縄県が39位に入っている。
- 平成25年度 新石垣空港乗降客200万人突破。(旧石垣空港乗降客数162万人(H24))



52 Places to Go in 2014
Witness a city in transformation, glimpse exotic animals, explore the past and enjoy that beach before the crowds. JAN. 10, 2014
A surfer checks the waves on Ishigaki. Ko Sasaki for The New York Times

18. Ishigaki, Japan

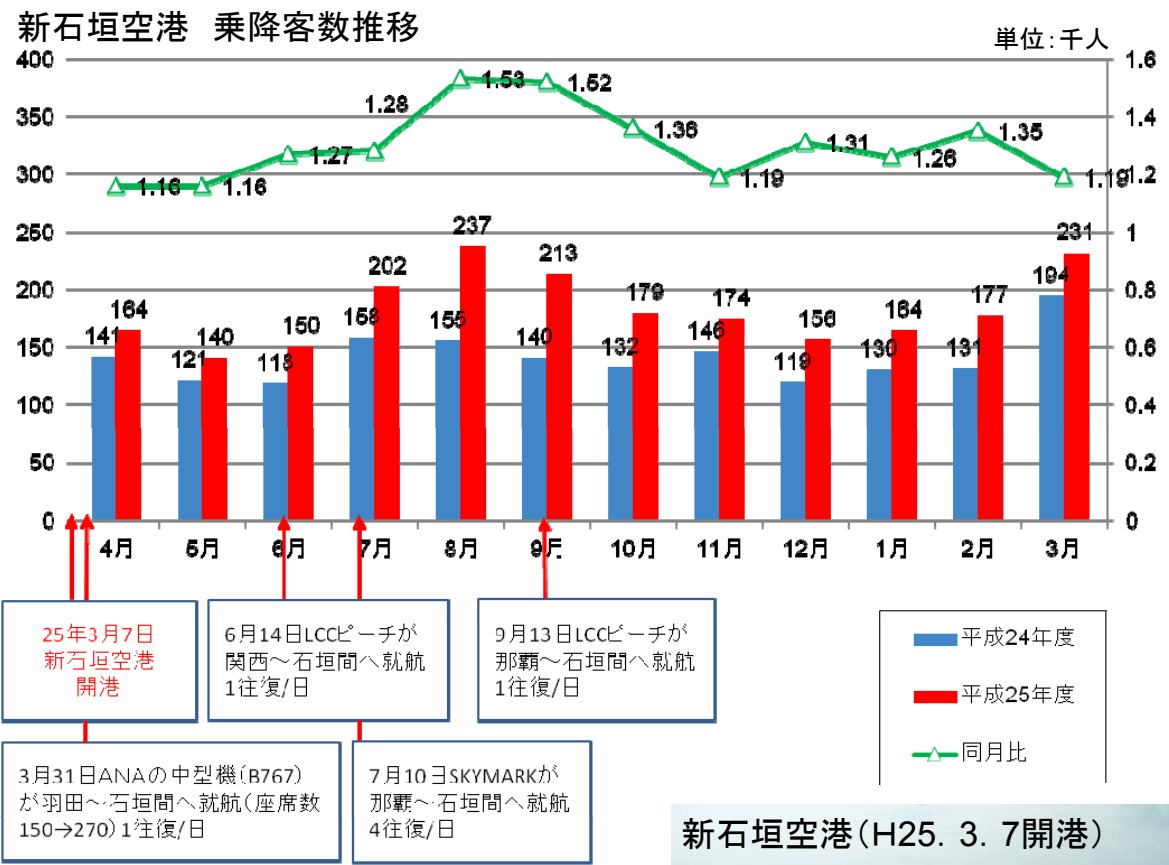
Sand and surf, now a (low-cost) hop from Osaka.

The yen is the weakest it's been against the dollar in years — down 25 percent from a year ago — putting Japan more within reach in 2014. For low prices coupled with laid-back attitudes, look way south to the island of *Ishigaki*, 250 miles south of Okinawa Island and far from the bustle of Tokyo. The 85-square-mile island, largely undiscovered, is home to sunburned surfers, sandy beaches and beautiful coral reefs. And it's never been easier to reach: A new airport opened here in March 2013, and Japan's new low-cost carrier, *Peach*, just began service from Osaka.

— INGRID K. WILLIAMS



2014 年(平成26年) 1月10日(金)
ニュー YORKタイムズ



(参考)
2014年行くべき52カ所(1位から18位)

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. ケープタウン | 11. 台湾 |
| 2. クライストチャーチ | 12. ドイツのフランクフルト |
| 3. カリフォルニア北海岸 | 13. エチオピアのアジスアベバ |
| 4. アルバニアの海岸線 | 14. ブラジルのフェルナンド・デ・ノヴィア |
| 5. ロサンゼルスダウンタウン | 15. テネシー州のナッシュビル |
| 6. ナミビア | 16. スコットランド |
| 7. エクアドル | 17. アルバータ州のカルガリー |
| 8. ベトナムのクアンビン | 18. 石垣島 |
| 9. オーストラリアのバース | |
| 10. オランダのロッテルダム | |

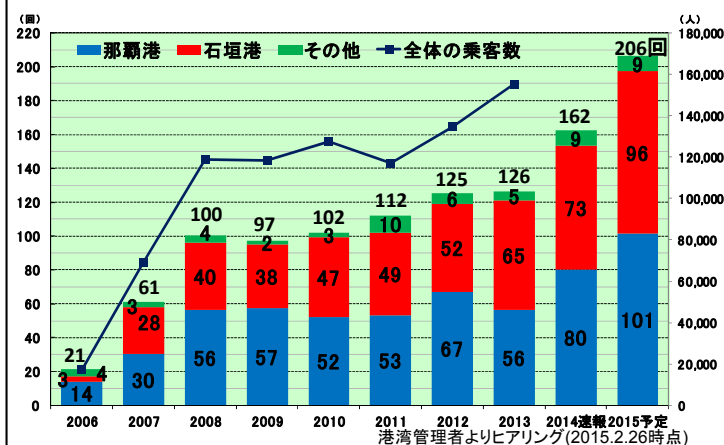
新石垣空港(H25. 3. 7開港)



③那覇港旅客船ターミナル

- 沖縄県の自立型経済を構築するためのリーディング産業の1つとして観光産業が位置付けられており、その観光産業を支援する旅客船ターミナルの整備を那覇港及び石垣港で推進している。
- 2014年の沖縄へのクルーズ船の寄港は162回を記録し、2015年は206回を予定、そのうち那覇港は101回、石垣港は96回と両港ともに過去最高の寄港見通し。乗客数も増加傾向(2013年:約15.5万人)。

【沖縄へのクルーズ船の寄港回数と乗客数の推移】【2008～2014年港湾別クルーズ船の寄港回数】



(上位10港)

順位	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年(速報値)
1	横浜 120	横浜 127	横浜 122	横浜 119	横浜 142	横浜 152	横浜 146
2	神戸 108	神戸 93	神戸 103	神戸 107	博多 112	神戸 101	博多 115
3	那覇 56	那覇 57	博多 84	博多 55	神戸 110	石垣 65	神戸 99
4	鹿児島 44	長崎 49	長崎 54	那覇 53	長崎 73	那覇 56	那覇 80
5	石垣 40	博多 46	鹿児島 52	石垣 49	那覇 67	東京 42	長崎 75
6	広島 36	石垣 38	那覇 52	名古屋 28	石垣 52	長崎 39	石垣 73
7	博多 35	広島 30	石垣 47	宮之浦(屋久島) 23	名古屋 43	博多 38	小樽 41
8	長崎 31	名古屋 29	名古屋 27	長崎 21	鹿児島 34	名古屋 35	函館 36
9	名古屋 31	鹿児島 28	宮之浦(屋久島) 25	広島 19	別府(大分県) 34	二見(父島) 29	鹿児島 33
10	大阪 22	宮之浦(屋久島) 25	広島 22	鹿児島 18	大阪 33	広島 26	名古屋 30

【那覇港における取り組み(那覇港管理組合)】

- ◆クルーズ客の利便性が向上
 - ・CIQ(税関、出入国管理、検疫)設備を備えたターミナルビルの供用により施設内での入国審査が可能(2014年4月供用開始)
 - ・ターミナルビルからクルーズ船へ直接、乗降できるボーディングブリッジ(搭乗橋)を整備(2014年12月完成)

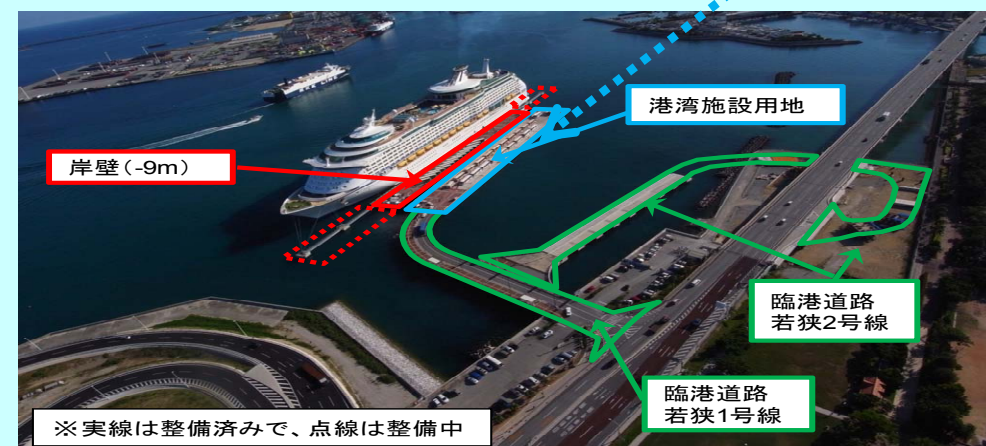


【クルーズ船寄港の経済効果】

上海からの旅客船の場合は1寄港当たり約1.4億円の直接的経済効果
(2012年沖縄総合事務局調査における推計結果)

【那覇港における取り組み(沖縄総合事務局)】

- ◆クルーズ船の寄港増やクルーズ船の大型化に対応
 - ・旅客船ターミナル暫定供用(2009年9月)
 - 着実な整備を背景に供用前2008年の56回から2014年は80回と大幅増加
 - ・岸壁拡張整備(210m→340m)
 - 岸壁を130m延伸し、大型バス20台の駐車スペースを新たに確保
- ◆クルーズ客の利便性が向上
 - ・アクセス道路(臨港道路若狭2号線)を新たに整備(2014年8月供用)
 - 市街地へのアクセス時間が20分短縮(25分→5分)



③那覇港へのクルーズ船の2隻寄港

- 平成26年は那覇港へのクルーズ船寄港は84回予定(平成25年は56回)されており、過去最高になる見通し。
- 2隻同時寄港の際は、1隻は新港ふ頭地区の貨物バースを利用せざるを得ず、利用者に不便を強いている。
- さらなるクルーズ需要に対応するため、クルーズ船専用岸壁の2バース目の計画について、今後の港湾計画改訂に向けて那覇港管理組合において検討中。

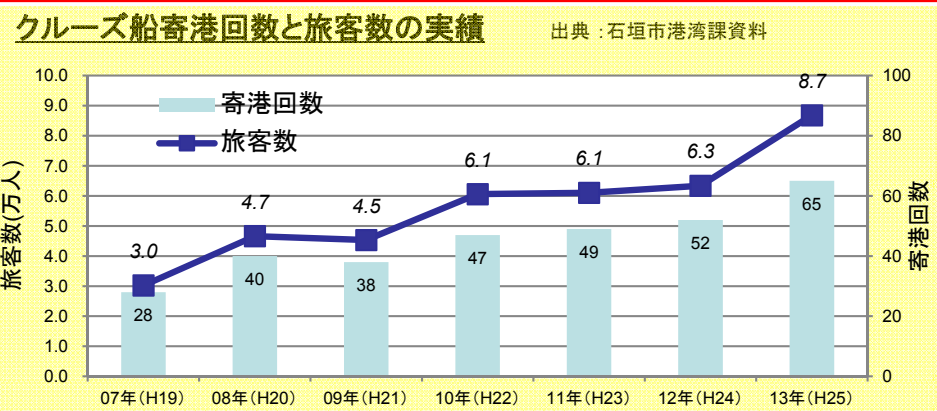


那覇港に寄港した「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」(手前)と那覇新港に寄港した「コスタ・ビクトリア」=13日、那覇市若狭



③石垣港における旅客船ターミナルの整備

- 石垣港へのクルーズ船の年間の寄港回数は平成20年に40回から平成25年には65回と増加しており、クルーズ船が主に利用できる施設がないことから、新たに新港地区では旅客船ターミナルの整備を進めている。
- 今後もアジアからのクルーズ船の寄港増加や大型化は続く見込みで、平成30年代後半には95回寄港を想定。
- さらなるクルーズ需要に対応するため、クルーズ旅客船岸壁を平成25年港湾計画改訂で2バース位置付け。



旅客船ふ頭計画

■1バース目 水深9m 延長340m岸壁(整備中)

➤新たに新港地区に旅客船ターミナルを整備することにより、貨物と観光客の輻輳を解消。(現在、クルーズ船が着岸する浜崎町の岸壁は貨物船と同じ施設を利用している。)

撮影年月：平成23年8月



【浜崎町】現在のクルーズ船係留状況



貨物の利用に伴う貨客の混在

■2バース目 水深12m 延長410m岸壁

➤アジア域内のクルーズ需要増大をうけ、平成30年代後半には95回/年(バタニング隻数21回)と予測、今後も成長が期待される。

➤クルーズ船のバタニングにより、石垣港が抜港された場合、訪日外国人による観光収益等の外貨獲得機会を逸することとなるため、約7億円(= 21隻 × 32百万円/隻(※H24沖総局調査))の経済損失が生じると試算。



- 26

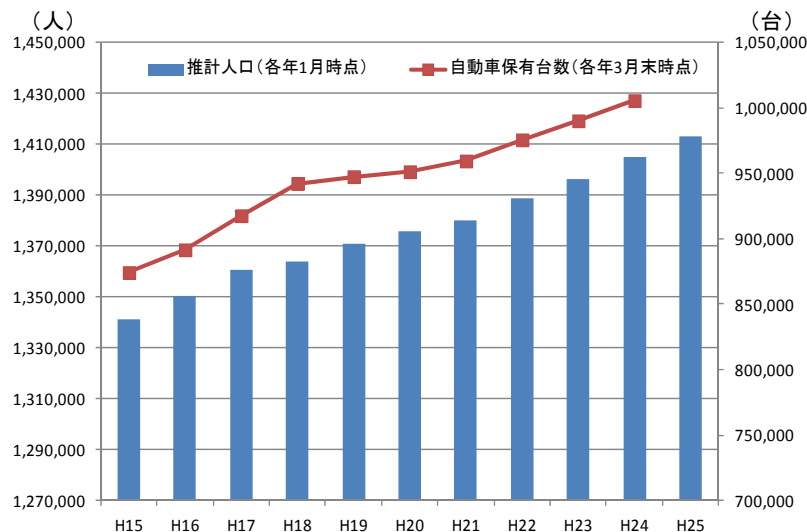
内閣府
沖縄総合事務局

- 27

③沖縄の道路交通の現状 (1)

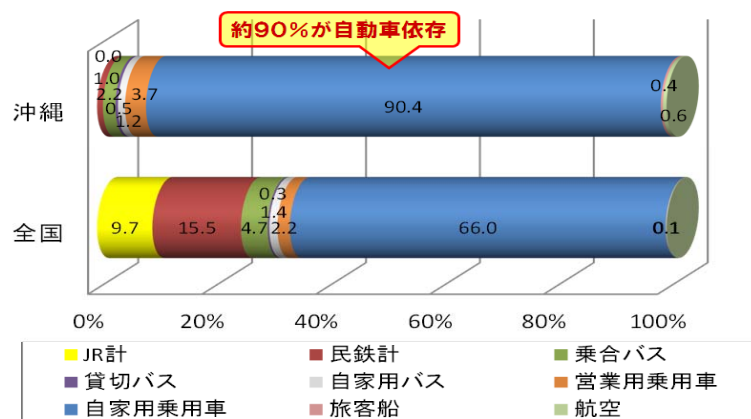
- 人口・自動車数の増加に伴い、容量不足のため交通混雑が顕在化(那覇市内は全国ワースト1)。
- 観光客も含め、県民の足が自動車に依存しており、道路ネットワーク整備とソフト対策が急務。

◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】

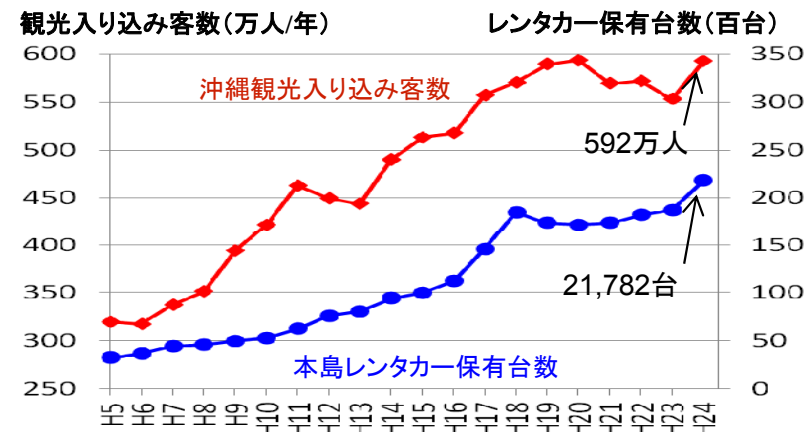
◆過度な自動車依存



【交通手段分担率(沖縄・全国)】

(データ: H21国交省旅客地域流動調査)

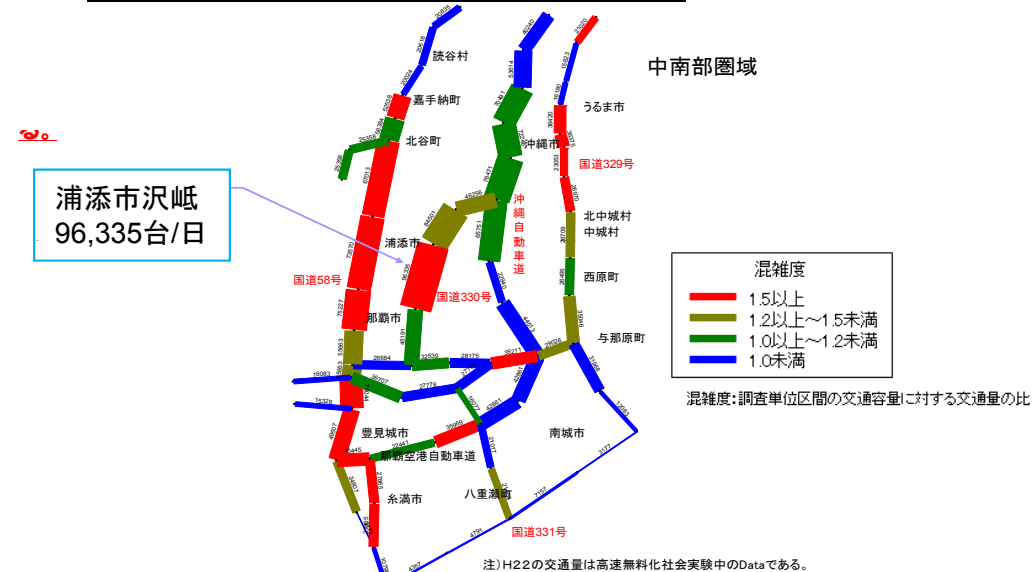
◆観光客の移動手段はレンタカー



【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移】

(データ: 沖縄県観光企画政策課, 運輸要覧(H24))

◆中南部県域の主要幹線は容量オーバー

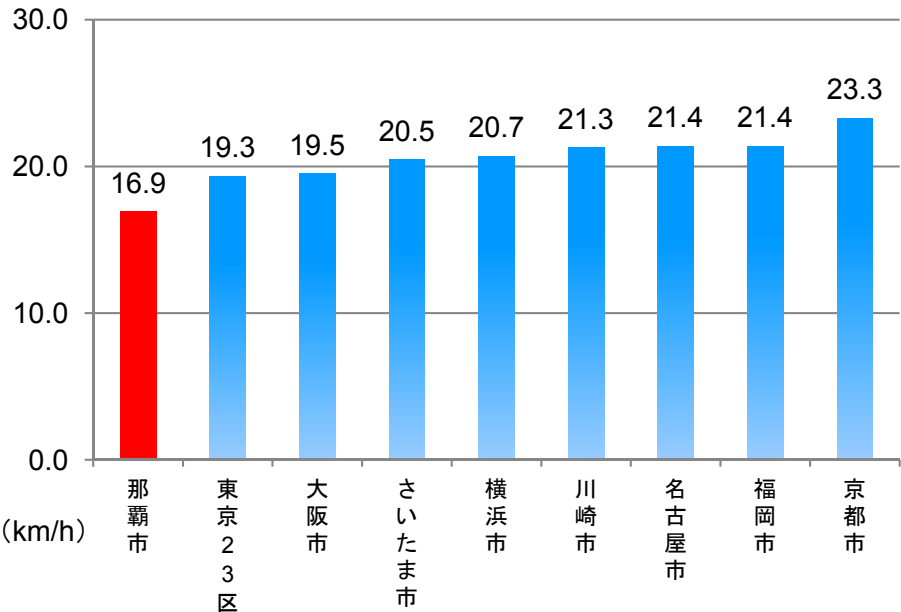


【H22年度区間別交通量図】

注) H22の交通量は高速無料化社会実験中のDataである。

③沖縄の道路交通の現状（2）

◆那覇市内の速度は全国ワースト1



【平日混雑時平均旅行速度の比較】
(データ:H24プローブデータ)



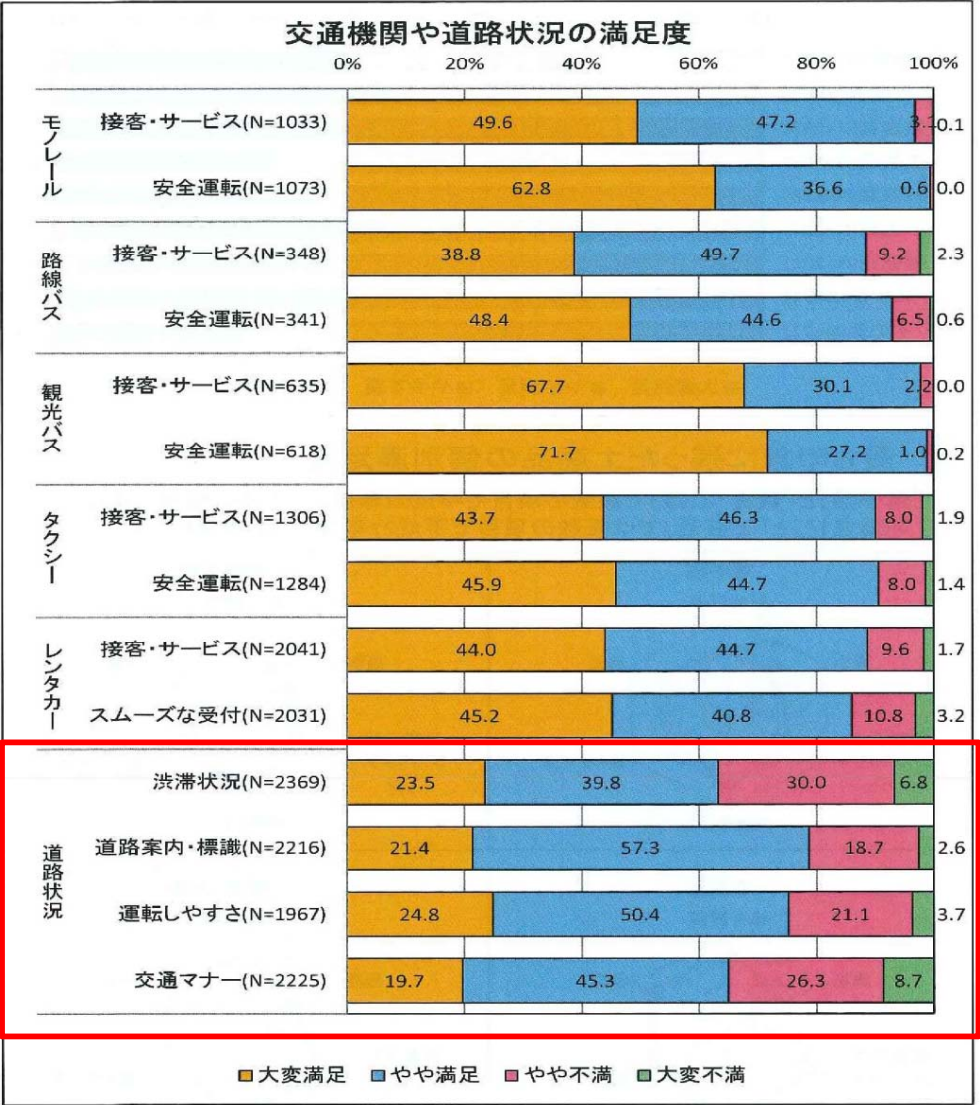
R58号 浦添市牧港



R58号 那覇市前島

◆ 交通機関や道路状況の満足度

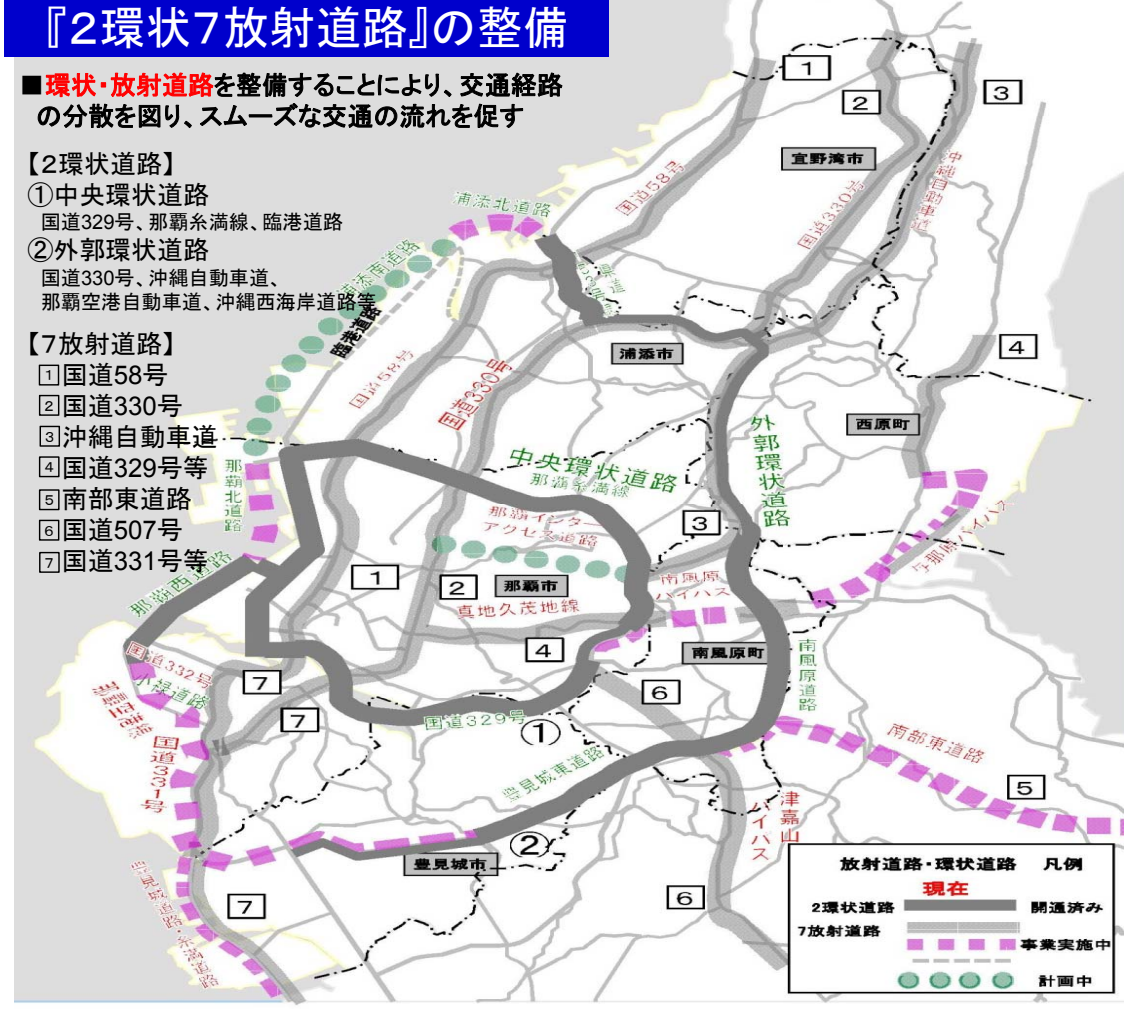
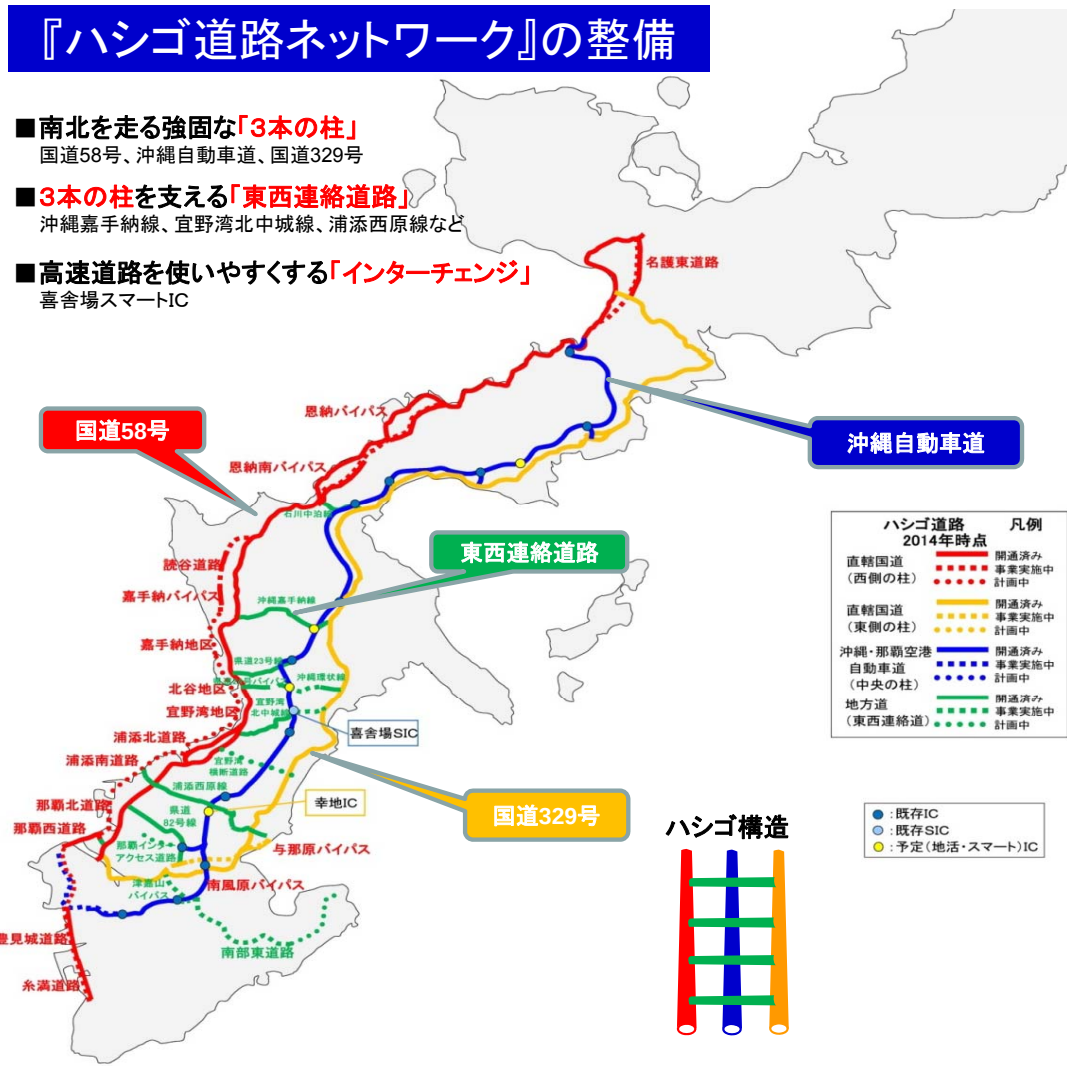
- 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
- 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他に比べ“大変満足”の比率が多い。



出典: 沖縄観光の満足度(平成24年度 観光統計実態調査(沖縄県))

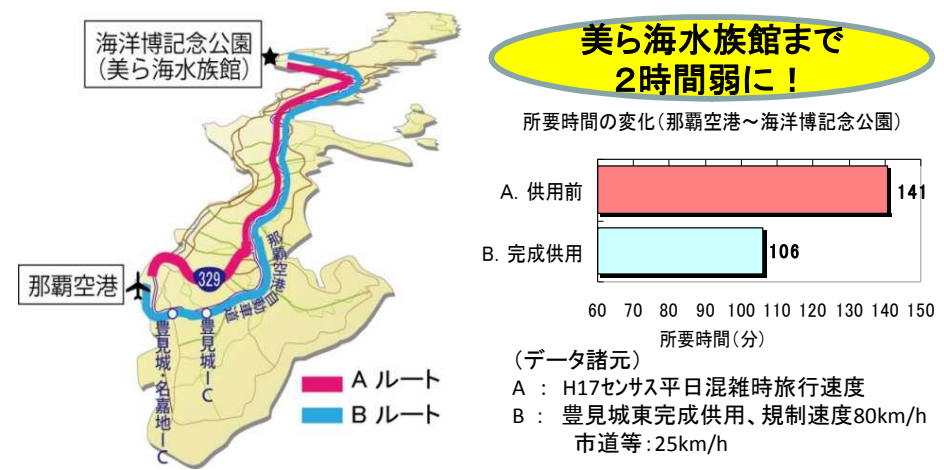
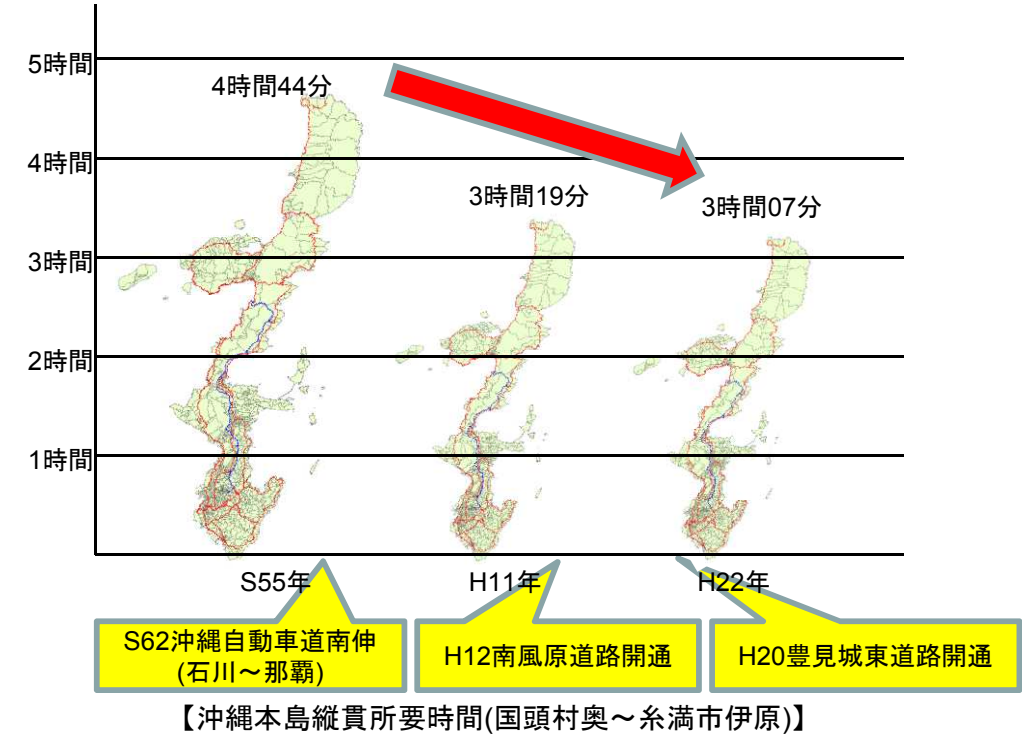
③道路ネットワーク【ハシゴ道路・2環状7放射道路】

- 【ハシゴ道路】**
 - 長期間を要する事業程、段階的な進捗と効果の発現を示すことが重要
 - 3本柱において、交通配分にアンバランスが発生(沖縄自動車道への交通を配分)
 - 交通の集中する西海岸、特に2環状7放射道路と重なる箇所を重点整備
- 【2環状7放射道路】**
 - 那覇市内の混雑時旅行速度が16.9km/hと全国ワースト1
 - 通過する交通を迂回させる環状機能と集中する交通を分散させる放射機能の強化
 - 外郭環状道路の整備(沖縄西海岸道路、那覇空港自動車道)、東海岸への放射道路の整備(南風原バイパス、与那原バイパス)



③観光振興を支援する道路整備

- 道路ネットワーク整備により、沖縄本島北端から南端までの所要時間が短縮し、観光振興にも寄与。
- 沖縄の玄関である那覇空港からの時間距離が短縮し、行動範囲が拡大。
- 渋滞が緩和し、スムーズに観光地巡りが可能に。

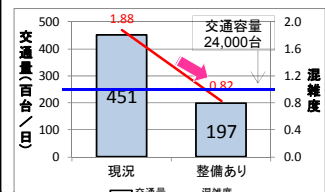
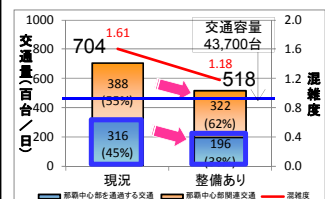


③那覇北道路・臨港道路若狭港町線

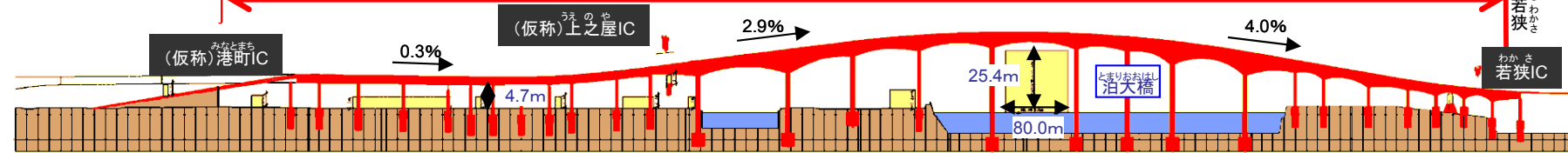
沖縄県の県都であり、産業の中心である那覇市において、交通容量を大幅に上回る約7万5千台の交通が集中する国道58号や臨港道路の著しい渋滞を解消し、市街地の一般交通及び那覇港の港湾関連交通の円滑な動線を確保するため、道路と港湾との共同事業による早期整備をめざす。



国道58号・臨港道路の交通が那覇北道路へ転換し、渋滞緩和が図られる。



- 凡 例
- 対象区間
 - 調査中区間
 - 高速道路
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般都道府県道等
 - 臨港道路
 - 主要渋滞ポイント
 - 事故多発箇所

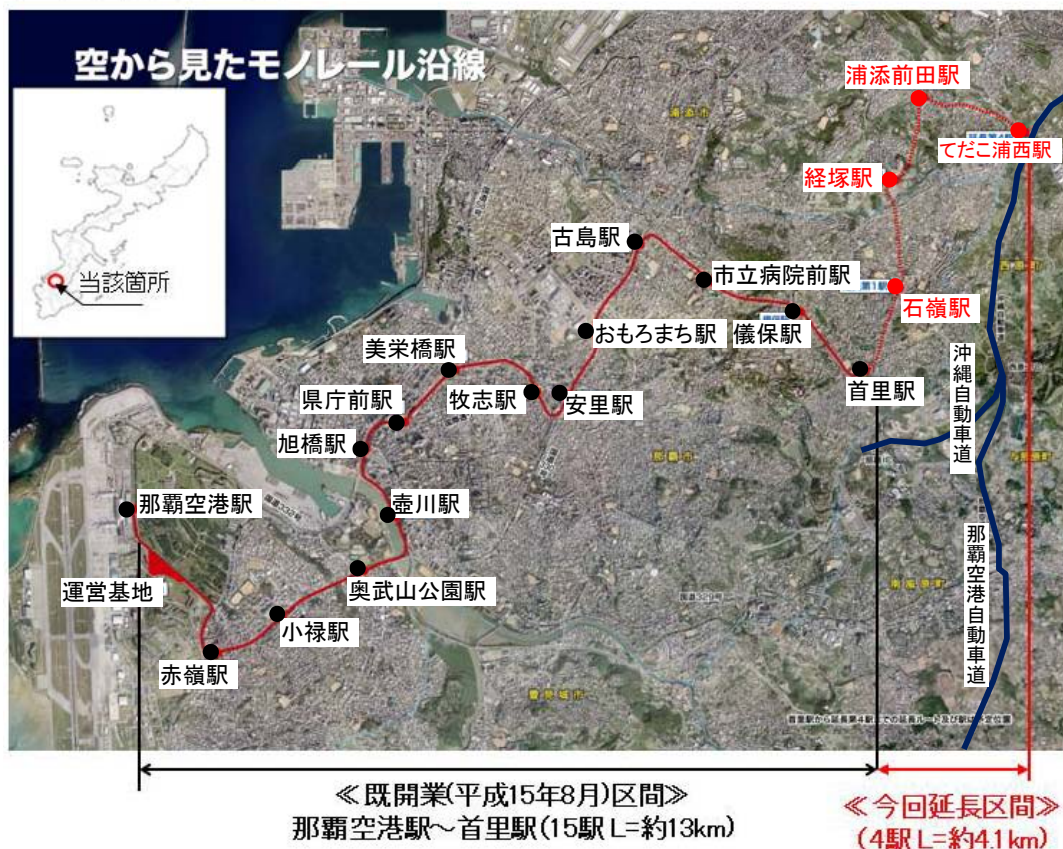


③沖縄都市モノレールの延伸

沖縄都市モノレールを現在の終点である首里駅から沖縄自動車道(西原入口)まで整備し、高速道路と結節する事で、沖縄本島を縦断する公共交通基幹軸を形成する。

○自動車交通からモノレール等公共交通への交通手段転換を促進し、那覇都市圏の交通渋滞緩和及び沖縄本島中北部から那覇都市圏へのアクセス性向上を図る。

○延伸によるモノレールのさらなる利用拡大、これに併せた集約型市街地形成と交通施策を重点的、総合的に進める。

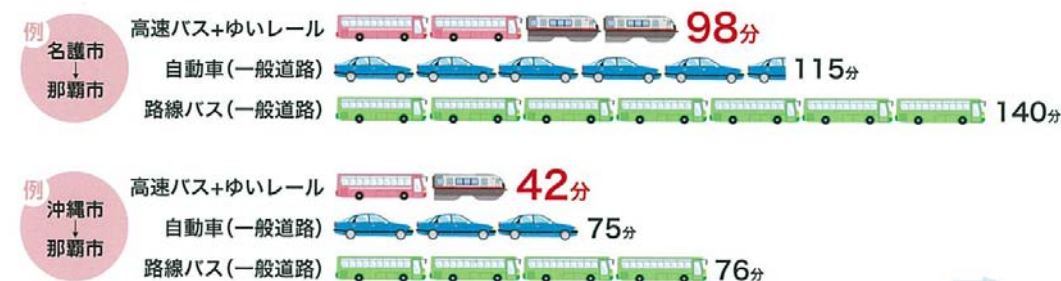


延伸区間概要:

- 事業期間: 平成21年度～平成30年度
- 延伸区間: 首里駅～てだこ浦西駅4.1km
- 駅数: 4駅
- 事業費: 約350億円(インフラ+インフラ外)
- 所要時分: 片道約38分(全線) ※現在15駅27分

高速バスとゆいレールで中北部の方々の移動時間も短縮できます。

ゆいレール沿線の方はもちろん、高速バスとゆいレールを効果的に利用することで、中北部の方々の移動の時間も短縮され時間を有効に活用できるようになります。



③ 駐車場等の整備

都市再生整備計画事業

- 駐車場有効利用システム: 駐車場利用車両を適切に駐車場に案内し既存の駐車場ストックの有効利用を促進する事により、整備区域周辺における路上駐車による道路交通の阻害の解消、利用者の利便性向上などを図り、道路交通の円滑化と市街地の活性化に資する。
- 地域生活基盤施設(駐車場): 1地区あたり概ね500台の整備に要する費用を限度に、平面でも立体でも整備可能。また、必ずしも道路区域である必要がなく有料駐車場とすることも可能ですが、料金設定は周辺の駐車場の料金水準から見て妥当なものであることが必要。

都市・地域交通戦略推進事業

都市交通の円滑化を図るとともに都市施設整備や土地利用の再編による都市再生を推進する為、徒歩、自転車、公共交通など多様なモードの連携が図られた、自由通路、地下街、駐車場等の公共空間や公共交通からなる都市の交通施設の整備。

- 駐車場の整備
- 駐車場有効利用システムの整備
- 荷捌き駐車場の整備
- 自転車駐車場の整備
- 等



駐車場案内板(沖縄市)



古島駅P&R(那覇市)



小禄駅P&R(那覇市)



安里駅P&R(那覇市)



荷捌き駐車場



駐輪場整備(那覇市)

④観光情報満載の「道の駅」

- 「道の駅」は、休憩やショッピングと合わせて、観光・地域情報を入手するのに最適。
- 「道の駅」は、地元が知る地域の名所等を活かした観光・地域情報発信のキーステーション。

○観光案内

- ・観光案内人が常駐し、北部12市町村の観光名所、祭り等を情報提供（「道の駅」許田）



○離発着情報の提供

- ・那覇空港に近接しており、出発までの空き 時間を利用して、訪れる観光客も多いため、JAL、ANA等の飛行機発着情報などを提供（「道の駅」豊崎）

離発着情報提供

便名	出発地	定刻	客数	備考	到着
901	東京	09:00	08:58	手荷物受取中	
1782	石垣	09:05	08:57		
872	久米島	09:15	09:02		
511	東京	09:20	09:50		
51	福岡	09:35	09:23		
552	宮古	09:40	09:36		
133	成田	09:40	09:25		
600	石垣	09:45	09:43		



○道路情報・観光情報の提供

- ・タッチパネルによる道路・観光情報提供など役に立つ情報が満載（各駅）



- 展望台から極東最大の嘉手納基地への飛行機の離発着が一望でき、多くの観光客や修学旅行生が訪問（「道の駅」かでな）

嘉手納基地



道の駅の展望台

④進化する「道の駅」(ゲートウェイ型、地域センター型)

- ドライバーの休憩施設として生まれた「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を活かしてひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと独自に進化。
- 今後、「道の駅」による地方創生拠点を形成し、「活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環」を目指す。
- また、「道の駅」の機能強化を図るため、地域活性化の拠点となる先駆的な取組を重点「道の駅」として選定し、重点的に支援していく。

○ゲートウェイ型 [地域外から活力を呼ぶ]

インバウンド観光

外国人ニーズの高いサービスを提供し、訪日観光を促進。

[外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、EV充電設備、海外対応ATM設置 等]

【現在の状況】

- ・無線LAN(ゆいゆい国頭、豊崎、いとまん)
- ・EV充電器(ゆいゆい国頭、許田)



EV充電器(ゆいゆい国頭)

観光総合窓口

地域の観光総合窓口として、地域の価値・魅力を向上。

[地域全体の観光案内、宿泊予約窓口 等]

【現在の状況】

- ・北部地域全体の観光案内(許田)
- ・染め織物[ウージ染め]体験(豊崎)
- ・体験機会の窓口(ゆいゆい国頭)



地域全体の案内(許田)

地方移住等促進

地方移住相談や移住体験ツアー一窓口の設置、ふるさと納税の情報提供等により、移住を推進。

[地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供 等]

○地域センター型 [地域の元気を創る]

産業振興

地域特産品を活かしたオリジナル商品開発・販売、観光資源のパッケージ化等による観光ニーズの呼び込み。

[地域特産品のブランド化、6次産業化、直売所の設置 等]

【現在の状況】

- ・オリジナル商品開発・販売(許田)
- ・直売所の設置(ゆいゆい国頭、おおぎみ)



オリジナル商品の開発・製造・販売(許田)

地域福祉

多様な住民サービスを提供、地域を支える小さな拠点。

[診療所、役場機能の提供、地域公共交通ネットワーク乗継拠点、高齢者住宅の併設 等]

防災

災害時に高度な防災機能を発揮、地域の防災拠点化。

[広域支援の後方支援拠点、防災教育等]

【現在の状況】

- ・支援物資集積所、非常時電源、非常階段の設置(許田)
- ・防災拠点施設を整備中(いとまん)



非常階段(許田)

○地域活性化の拠点を形成する重点「道の駅」

【全国モデル「道の駅」】 地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの(H26選定:6箇所)

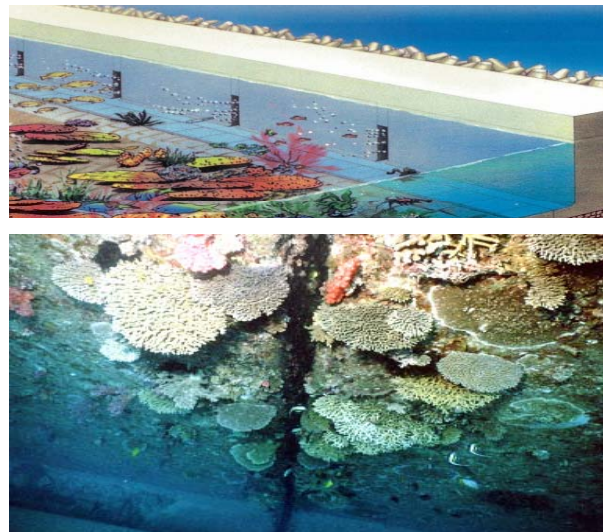
【重点「道の駅」】 地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの(H26選定:35箇所)

【重点「道の駅」候補】 地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの(H26選定:49箇所)

 沖縄総合事務局

- ### 【那覇港における取組】

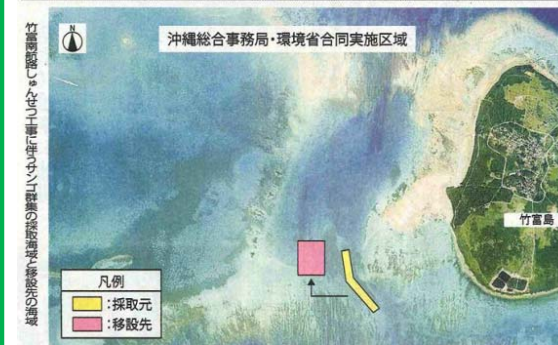
【平良港における取組】



A large, complex coral reef structure with various coral species growing on a rocky substrate. The image shows a dense arrangement of different coral types, including large, flat, plate-like corals and more intricate, branching or brain-like corals. The colors range from light green to brownish-yellow, indicating different species and possibly some signs of degradation or bleaching. The background is a deep blue, suggesting an underwater environment.

【石垣港の取組】

サンゴ群集300平方メートル移設



石垣港灣と環境事務所

周辺のサンゴ礁回復も期待

[illegible]

八重山毎日新聞 H25.11.13

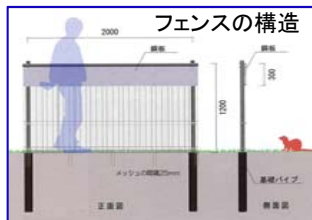
⑤ 沖縄の水資源開発における環境への取組み

- ダム整備の進められた北部の水源地‘やんばる’は、絶滅危惧種に指定されるノグチゲラやヤンバルクイナ等の沖縄固有の貴重種が生息するなど、豊かな自然環境が残された貴重な環境。
- 整備にあたり、これら自然環境への配慮を行うとともに、環境の復元・創出等に努めている。

貴重種等の保全対策の実施



大保ダムでは森林がノグチゲラによる営巣可能な状態に回復するまでの「緊急避難的な措置」として「人工営巣木」を設置。



設置延長L=4, 220m
(県:L=2, 850m、国:L=1, 370m)



マングースフェンスの設置
SF(塩屋ー福地)ライン

大保ダム事業の環境保全対策の一環として、県と連携してS-Fラインにヤンバルの森へのマングースの侵入を防除するフェンスを整備。



漢那ダム魚道



金武ダム魚道

ダムによる上下流分断の影響を低減するため甲殻類やハゼ類が遡上可能な匍匐(ほふく)型魚道を整備。

環境創出、景観配慮



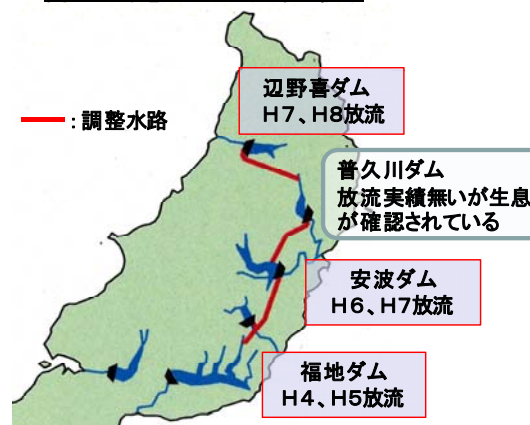
漢那ダムでは湿地環境を好む生物の多様な生息環境を創出(全国に先駆けた湿地ビオトープの整備)。



上: 漢那ダム堤体は石積み模様と曲線による設計
左: 参考にした中城の切石布積の城壁

リュウキュウアユ再生への取組み支援

陸封型リュウキュウアユの定着・拡散
調整水路を通じ生息分布が拡大



源河川におけるアユ放流会

ダム湖では陸封に成功しダム湖、流入河川に定着。現在は河川での定着に向けて河川環境改善の取組を試行。

⑥ 沖縄防災連絡会

- ・沖縄地域における大規模な地震・津波災害の発生に備えて、予め関係機関が対応策を検討。
- ・特に発災直後は、島内の限られた資源のみで災害対応を行わざるを得ない状況も想定。
- ・関係行政機関、民間団体等が相互に連携・協力した迅速・的確な初動対応の実施。
- ・沖縄総合事務局の呼びかけで、沖縄防災連絡会を平成24年11月12日設立。
- ・第4回防災連絡会(H26.7.24)において初動対応の「中間とりまとめ」及び「水部会」の新規設置の承認。

【構成】

・30機関+3機関(オブザーバー)で構成

【活動内容】

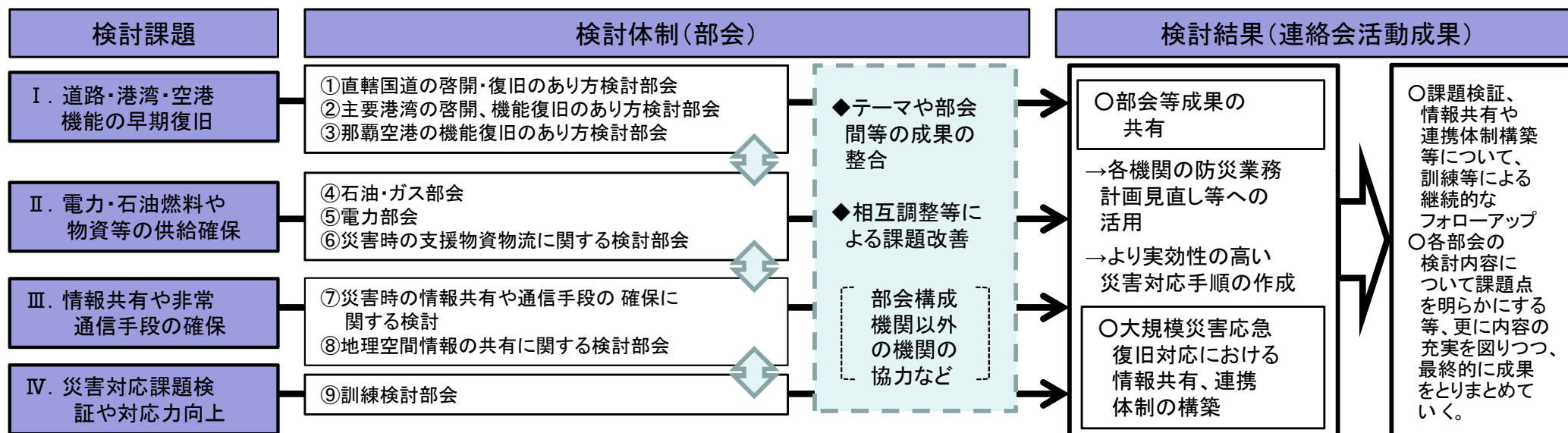
- ・災害対策に関する情報、取組施策等の共有
- ・災害対応施策の調整、連携
- ・道路、港湾、空港啓開の在り方、情報通信機能や運輸・物流体制等の社会・産業基盤の応急復旧に関する検討
- ・電力、石油・ガス等の燃料、要員・資機材等の諸資源の確保等に関する検討など

国関係機関

県関係機関

沖縄防災連絡会

民間団体等



⑥災害時の情報交換及び応援に関する協定(リエゾン協定)締結の推進

- 国においては、自治体の公共土木施設等に災害が発生または災害が発生するおそれがある場合に、迅速且つ的確な災害対策を実施することができるよう、日頃から相互の信頼関係を構築する目的で、『災害時の情報交換及び応援に関する協定(リエゾン協定)締結』を推進しています。
- 応援する内容は……………
 - ①リエゾン(情報連絡員)を協定者の災害対策本部に派遣し情報交換を行います。
 - ②災害状況を勘案し、沖縄総合事務局の所有する災害対策用資機材(防災ヘリコプター等)を派遣します。
 - ③平時においては、共同で防災訓練を行い、災害対応は迅速に実施いたします。

※ リエゾンとは:Liaison、「つなぐ」という意味のフランス語。災害時の情報交換に関する協定においては、自治体に派遣される職員を指す。

○沖縄県の全自治体(41市町村)とリエゾン協定締結済み

- ①リエゾンを災害対策本部へ派遣
- ②災害対策用資機材の派遣
- ③共同で防災訓練を行い迅速な災害対応



①自治体へリエゾンを派遣



②災害対策用資機材の派遣



③共同での防災訓練を実施

全国の事例:東日本大震災時の応援活動



リエゾンによる被災状況把握



排水ポンプ車による活動状況

出典:国土交通省HPより

⑥緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の概要

TEC-FORCEとは

- 国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)は、大規模な自然災害に際して被災状況の把握や被災地方自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施することを目的として、平成20年度に創設されました。
- 全国の地方整備局と事務所を中心に職員が隊員として任命。
局地的な災害(ゲリラ豪雨など)に対しては近傍の事務所や管内の地方整備局から現地へ参集。
東日本大震災のような広域的な災害に対しては全国の地方整備局から現地へ隊員が参集。
- 災害対策用の機材(ヘリコプターや排水ポンプ車、通信衛星車など)も全国に配備しており、迅速な被害状況調査や現地での応急対応が可能。

広域的な災害事例

広島市で発生した土砂災害に対する支援を実施するため、8月20日に中国地方整備局のほか全国の地方整備局(北陸・中部・四国・九州)らTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)14班57名を派遣。



家屋の土砂災害の被害様子



国土交通省の対応

- ・災害発生直後から、広島県及び広島市ヘリエゾンを派遣。
- ・災害対策用ヘリコプターにより、上空からの被害状況把握を実施。
- ・土砂災害に関する専門家を現地に派遣し、実態調査及び技術支援。
- ・照明車などの災害対策車両を派遣。



自衛隊・消防・警察と捜索活動の打ち合わせ【8月24日】



安佐南区八木町の被害状況調査【8月21日】

社会資本整備事業の見える化

- 開発建設部が進めている社会資本整備事業等の見える化(わかりやすく示す、見通しを示す、情報を共有する)のため、事業計画・工程表を作成・公表
- 事業計画において、事業内容等を示し、工程表において、目標、進捗状況、見通し等を記載
(平成26年度予算を踏まえたH26.5末現在のものであり、今後、状況の変化等に応じて随時更新する予定)
- 事業計画・工程表は、年度毎に達成状況等を確認し、目標を設定してローリング
- 対象は、道路、ダム、港湾、空港、公園、営繕、防災、その他の8つの分野
- 今後、進捗管理を徹底しながら、できるだけ工期の短縮化に努力

事業計画・工程表の構成

◆事業計画

- ・概要、H26年度事業内容、位置図、ポンチ図、写真等を記載

◆工程表

- ## ○H25年度の成果等

- ・H25年度における事業等の進捗等の成果を記載
(△△供用済、▲▲促進、□□実施、など)

- ## ○H26年度の成果目標等

- ・H26年度における事業等の進捗等の目標を記載
(△△供用予定、▽▽新規事業化、▲▲促進、□□実施、など)

- ## ○事業等の見通し

- ・供用目標等をバーチャートで表示(H25年度～H31年度以降)
(凡例は右図参照)

- ## ○備考

- ・これまでの成果、全体の目標、その他の参考情報を記載

变更要因

- 事業等の見通しは、標準的な工程を想定した場合の目安。今後の予算状況や施工上の条件変化等により変更の可能性がある。
（例）用地取得時における土地所有者調査・関係者調整の長期化、地元調整や環境配慮等のための工程調整、関係機関・隣接事業との調整、など

凡例等

H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降
[Solid Arrow]		H26年度供用予定				
[Dotted Arrow]		早期供用予定／供用時期未定(※)				
[Solid Arrow]		H27年度暫定供用予定				
[Dashed Arrow]		供用時期未定(※)				
[Double Arrow]						
経年事業等						

(※)供用時期未定事業等については、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定

- 【うちな～インフラ情報館】

写真で見る進捗状況。随時(月毎等)更新。

平成25年12月4日
沖縄総合事務局 南部国道事務所

沖縄観光インフラカードの発行

- 「観光客1000万人時代のインフラ整備」について一般者や観光客に広報を展開し、観光振興に寄与
- 観光客を含め一般の方に、観光に貢献するインフラについて、広く容易に理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成
- 配付窓口において一人一枚の手渡しにより配布

○「沖縄観光インフラカード」は、収集を楽しみながら、観光とインフラの関係を理解することができるとともに、観光の満足度の向上や誘客につながることを期待されます。

○今後、民間との連携、SNSやホルダーの活用など展開次第で大きな広がりの可能性を有しています。

○「沖縄北部ダムツーリズム」については、QRコードより簡単に各施設の風景画像や動画など特別な情報を見ることができます。

今年度発行

- ①沖縄北部ダムツーリズム(平成27年2月28日発行)
福地ダム、安波ダム、漢那ダム
- ②道の駅(平成27年3月中旬発行予定)
許田、おおぎみ、ゆいゆい国頭、かでな、喜名番所、豊崎、いとまん、ぎのざ
- ③国営沖縄記念公園(平成27年3月下旬発行予定)
沖縄美ら海水族館、首里城
- ④開通記念(平成27年3月下旬発行予定)
豊見城東道路

沖縄観光インフラカードの例 沖縄北部ダムツーリズム「安波ダム」



「沖縄観光インフラ」シンボルマーク

- 「沖縄観光インフラカード」は、各インフラ施設において統一したデザインと仕様で作成し、デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生によるチームに依頼。

シンボルマーク



このシンボルマークは、【見】という漢字が造形的モチーフになっています。「沖縄県の県章」を象った【目】にあたる部分は、新たな「観光」の可能性を展望するものであると同時に、それを支える【足】の部分が、新たな観光スポットとして注目される「インフラ」および観光を支える「インフラ」を象徴しています。

また、こうした「観光地」を巡り、沖縄の魅力をたくさん「発見」しながら旅を満喫する観光客たちの姿を表現したものでもあります。

スタンプ風に仕立てたこのマークを今回の「沖縄観光インフラカード」に施すことで、それらを集める喜びや楽しさを演出するとともに、沖縄を訪れた人々の素敵な思い出の証しとなるようデザインしました。

【カードのディレクションとデザイン】

吉富友恭(よしとみ ともやす)

東京学芸大学 環境教育研究センター 准教授

東京学芸大学環境教育研究センター准教授。博士(水産学)。

正木賢一(まさき けんいち)

東京学芸大学 教育学部 准教授

東京学芸大学教育学部准教授。グラフィックデザインを専門。



- 観光客の誘致のみならず約5割増に対応する社会の構築が必要
- このため、①～⑥の6つの分野のインフラ整備は不可欠
- 観光地や活動の魅力、観光産業の力に、観光地の形成、地域の安全安心の確保、円滑な人・物の移動、快適かつ活力のある地域づくり、情報発信の充実等のインフラ能力を加えた真の観光力の向上を図ることが重要

観光客のみならず県民にとって便利で質の高いインフラ整備を実現
観光とインフラの融合という新たな視点でのインフラ整備を推進

観光客1000万人時代のインフラ整備に向けて見える化の推進

- ▶観光客の観点からインフラ整備の検証
- ▶事業計画・工程表等を活用した6つの分野のシナリオの作成

総合的な連携施策の立案

- ▶観光、運輸等の部局や民間との連携施策
- ▶関係機関の連携・協同

ご清聴有難うございました。

本日の講演内容は、沖縄総合事務局
開発建設部のホームページ
「観光とインフラ整備」で公表します。

開発建設部HP <http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/012480.html>